

第 1 7 回教育委員会（2）

開会日時 令和 6 年 8 月 2 2 日（木）

午後 1 時 0 0 分

閉会日時

午後 5 時 4 5 分

開会場所 第一委員会室

出席者

教 育 長	長 沼 豊
委 員	高 野 佐紀子
委 員	青 木 義 男
委 員	野 田 義 博
委 員	善 本 久 子

出席事務局職員

事務局次長	林 栄 喜	地域教育力担当部長	雨 谷 周 治
教育総務課長事務取扱参事	諸 橋 達 昭	学 務 課 長	金 子 和 也
指 導 室 長	富 田 和 己	新しい学校づくり課長	柏 田 真
学校配置調整担当課長	早 川 和 宏	施設整備担当副参事	彼 島 勲
生涯学習課長	太 田 弘 晃	地域教育力推進課長	高 木 翔 平
教育支援センター所長	石 野 良 恵		

署名委員

教育長

委 員

午後 1時 00分 開会

教 育 長 皆様、こんにちは。本日は4名の出席を得ましたので、委員会は成立しております。

それでは、ただいまから8月1日の継続として、令和6年第17回の教育委員会を開会いたします。

本日の会議に出席する職員は、林次長、雨谷地域教育力担当部長、諸橋教育総務課長事務取扱参事、金子学務課長、富田指導室長、柏田新しい学校づくり課長、早川学校配置調整担当課長、彼島施設整備担当副参事、太田生涯学習課長、高木地域教育力推進課長、石野教育支援センター所長、以上11名でございます。

署名委員は、会議規則第29条により、善本委員にお願いします。

本日の委員会は21名から傍聴の申し出がなされており、会議規則第30条により許可しましたのでお知らせいたします。

本日の会議時間は、板橋教育委員会会議規則第11条に基づき、通常は午前10時から正午までのところ、午後1時から午後5時30分までと変更いたします。

なお、本日は長時間の審議になるため、出席職員は、業務の都合上、会議を中座することがございますことをあらかじめご了承ください。

また、議事運営の都合上、午後3時5分頃をめどに休憩を挟み、審議を進めてまいります。この時刻は前後する可能性があることをご了承ください。

それでは、議事に入ります。

○議事

日程第一 議案第26号 令和7年度区立小・中学校使用教科用図書の採択について

(指導室)

教 育 長 日程第一 議案第26号「令和7年度区立小・中学校使用教科用図書の採択について」、審議します。

今回は「数学」まで審議いたしました。本日は「理科」から審議いたします。指導室長から説明願います。

指 導 室 長 理科につきましては、5社でございます。「東京書籍」「大日本図書」「学校図書」「教育出版」「新興出版社啓林館」から採択をお願いします。

教 育 長 それでは審議に入ります。
まずは高野委員から、お願いいたします。

高 野 委 員 理科についてです。理科は、教科書を使った授業の流れが生徒にとって分かりやすいことに加えて、授業以外でも、生徒が自分で自学する際に使いやすいという点で、まず東京書籍がいいのではないかと思います。

東京書籍の教科書は、各学年、巻頭に「探究の流れを確認しよう」があり、活動例と教科書で課題を解決していく学習活動が詳しく説明されています。

4 ページには、「考察はここをおさえよう」として、考察のポイントやレポートのまとめ方、議論の仕方など、学習に役立つ様々なポイントが紹介されています。

また、8 ページでは、1 年生では安全に実験を行うための理科室の決まりとか、2 年では気象の継続観察と利用例、3 年では天体の継続観測などが書かれていて、巻頭ページが充実していることが挙げられます。

また、各単元の最初に、1 年、72 ページのように、小学校からの既習事項のポイントが記載されていて、学習の見通しを持たせています。

章の始めと終わりに「before & after」というのがあり、生徒自身が学習前と学習後の考えを比較して学びを深めていくことができます。

各単元は、「問題発見」で、スタートと課題で始まって、課題に対する結論を自分の言葉で表現し、学習した内容を生かして考える活用で終わるように構成されています。

紙面の下部に学びのフローチャートが記載されているので、生徒が授業の流れを意識しながら進めることができます。

また、観察、実験の技能に関わる内容では、1 年の 17 ページや 119 ページのような、1 ページにまとめて記載し、実験の内容を確認しやすくするために、目的から考察の流れをステップごとに縦に示しています。写真も大きく、それぞれの過程での注意事項が、分かりやすく、細かく記されています。

あと、コラムの中で、「まちなか科学」というコラムがあります。

1 年の 165 ページに、救急車のサイレンとドップラー効果の関係、2 年の「このようなところにも静電気が！」では、コピー機で静電気を利用していること。また、3 年の 142 ページ、雨のしずくはどこまで速くなるというところでは、雨の速さとしずくの形など、日常生活と関連が深い読み物として「まちなか科学」があり、身近なところに理科の学習で学んだことを関連づけて考える、興味深い読み物となっています。

以上の点で、東京書籍がいいのではないかなと思いました。

あと、もう 1 社、教育出版です。

教育出版は、同様に、教科書の巻頭で、探究の過程、レポートの書き方、理科室の決まりなど、確認すべき内容がまとまっています。

単元の導入ページは、見開き 2 ページを使った大きな写真があり、単元を通して何を学んでいくのかを示し、単元の学習の見通しが持てるようになっています。

章の学習の導入では、これまでの学習として、小学校や全学年での既習事項と「学習前の私」があります。そして、章の学習のまとめに「学習後の私」があり、生徒が自身の変容を自覚できるようになっています。

課題、仮説、計画の場面などに、教師や生徒のキャラクターが会話形式で疑問や生活経験、既習事項を効果的に発言していきます。

例えば 1 年の 102 ページ、水溶液の性質のところでは、コーヒーシュガーを水に入れてかき混ぜたときの様子を見て、「水溶液は透き通っているけど、コーヒーシュガーの粒はどこに行ったのかな」とか、「コーヒーシュガーを溶かす前

後で全体の質量は変わらないかな」「水に溶けたコーヒーシュガーはなくなっていないよね」など、様々な場面でキャラクターの発言が効果的に使われている点も非常にいいと思います。

あと、本日の課題が赤枠で囲まれていて、学ぶべき内容が明確になっている。重要語句を赤字で示すなど、分かりやすい表記がされています。

字が大きく、行間も広く、読みやすい、写真、イラストが効果的に使われているなど、教育出版の教科書は非常に分かりやすい教科書だなというふうに思いました。

以上、東京書籍、教育出版の2社を推薦したいと思います。

教 育 長 では、青木委員。

青 木 委 員 私も、高野委員と近い感じではあるのですが、東京書籍と教育出版を挙げさせていただきました。

東京書籍、まず教科書、扉ページのところの写真を見たときに、他の4社に比べて、表紙のデザインが非常に斬新であるということがあります。

ただ、それぞれ一言ずつ表紙の扉に言葉が入っていますが、当たり前ですが自然科学を貫く基本的な姿勢といったようなことが表現されているという意味では、教科書を見たときに、子どもたちが科学、自然科学に対して興味関心を持てるようなキーワードになっているのかなというところが、2つ共感を覚えました。

また東京書籍は、裏表紙の保護者の皆様へというところに、重要な内容が記されていて、保護者が家庭学習の中でこのような科学に対しての興味関心を促すといった際の参考になるようなポイントが書かれているかなというところがございました。これは他社にもあるのですが、一番丁寧な感じがいたしました。

それから、例えばですが、1学年の14ページ、15ページの植物、動物、この写真があるのですが、これにスケールが入っていますので、このスケールで大きさ自体の把握、イメージがしやすいという分かりやすさもありました。

といった意味では、非常に東京書籍は、理科というものに興味関心が少ない子たちの興味関心を引き出すというところに焦点が置かれているかなということを感じました。

先ほど高野委員もおっしゃっていたのですが、問題発見から課題、仮説、そして構想、観察、実験を通じて、考察、結論、そして振り返りというようなPDCAといったようなところがうまく繰り返されるような内容になっているかなということも感じています。

これは東京書籍、教育出版、両方なのですが、ユニバーサルフォントの使用、色覚特性に配慮している点、ここも、他社も含めてですが、共通事項になっているかと思います。

一方、教育出版の方、これは内容的には、私が理系の研究者ということも含めてなのですが、理系教育の充実にはこちらがよいのかなという気がしております。

例えば、1学年の巻末資料の272、275、理科で使う算数・数学、これは

数学とのつながりを意識できて、理解を深めるよい教材であるというふうに感じております。

また、密度から身近な金属を特定するような実験、これはもう逆に実験から想定するという話で、1学年の87、88、これも丁寧に分かりやすい説明がされていて、86ページのハローサイエンスのですが、実験で重要な許容誤差というのについて説明されています。これは少し専門性が高いというところですが、やはり、将来、理系脳というような意味合いですとか、データサイエンスという視点から含めると、この許容誤差の概念というのに触れているというのは非常に重要なのかなというふうに感じています。

また、2学年の77ページ。広がる科学の世界とか、宮沢賢治の物語を取り上げまして、独創的な表現として用いられる科学、いわゆるこういう小説家も科学の言葉や考え方を引用しているというようなことで取り上げていて、このようなところが、教科横断であったり、STEAM教育というのをイメージさせるところで、非常にいいなというふうに感じたところです。

また、教科書の巻頭には、疑問、課題、仮設、計画、観察、実験、考察、結論という過程、この説明がされていて、小学校の問題解決の流れを受け継いだ形でしょうね、ここの連携、連結といったところを図っているというようなところを感じた次第です。

あと、区民の意見の中なのですが、やはり教育出版や東京書籍を薦める肯定的なご意見がそれぞれありました。

というところも含めて、この2社を推薦させていただきます。

ただし、板橋区の方にはどちらがいいかといいますと、どちらかというと専門的よりは、広く自然科学に興味を持つという意味で、東京書籍の方がいいのではないかというふうに個人的には感じております。

以上です。

教 育 長 それでは、野田委員、お願いします。

野 田 委 員 よろしく願いいたします。理科について意見を述べさせていただきます。

私は、現在使用されている教科書をはじめ、教科用図書調査委員会の調査研究報告書、学校調査研究報告書、区民アンケートを事前に拝見し、それらを参考に、保護者の立場から家庭学習や自主学習の教材としての活用も視野に入れ、各社の教科書を確認いたしました。

審査の観点としては、板橋区教育ビジョン2025を意識し、板橋区授業スタンダードに沿った流れで構成されているか、単元ごとに学習の見通しが立てやすいか、そして読み解く力の育成について、特に小学校で学んだ身近な発見や気づきを振り返りながら、中学校の理科で生徒が問題解決の基礎を築けるか、他教科との関連も意識しながら生活に役立てられるか、自学自習が可能か、さらに教員が教科書を活用した授業を進めやすいかという点を重視して確認しました。

詳細な点については、委員の皆様のご意見を伺いながら、必要に応じてコメン

トさせていただければと思います。

理科に関しては、私の専門性も踏まえ少しお話をさせていただきます。中学校の理科は、自然科学、つまりサイエンスを自分の生活と関連付けながら学ぶ探究学習の第一歩だと考えています。自由な発想と自立性を基盤に、創造的な考えを尊重し合い、分野を超えて様々な考えを持つ仲間と共有することが重要だと考えます。

このサイエンスを理解するためには、日々の観察を通して気づいたことに仮説を立て、実験調査を行い、得られた結果から仮説を検証するというプロセスがあり、これは実生活とも密接に関わっています。他者との意見交換によって理解を深め、新たな課題の発見につなげることができると思います。重要なのは、結論の正しさではなく、その導き方こそがサイエンスの本質であると考えます。中学校の理科では、宇宙、物質、エネルギー、生命といった多様な分野の理解を深めることが目的であると認識しています。

全体を通して、各社の教科書は板橋区授業スタンダードに沿い、問題解決のプロセスが解説とともに丁寧に構成されていると感じました。また、理科的発想や次の課題を見つけるための項目などもあり、自主学習力を高める構成になっている印象を受けました。

今回の採択において、私は東京書籍と教育出版をこの順で推薦させていただきます。

まず、東京書籍の教科書については、各学年の巻頭に教科書の使い方や考察の要点、レポートや発表の方法、情報収集の仕方が詳細に書かれており、これは「Think」と「Output」の重要性を学ぶための重要なポイントだと感じました。各単元の導入でこれらを確認することにより、学習の流れがスムーズに進むと感じます。また、他教科や他学年の理科との関連性を意識した構成が見られ、生活経験を基に考えを広げられる点も評価されます。ノートの書き方や器具の使い方、レポートの作成方法が発達段階に応じて分かりやすく示されており、学習理解を助ける内容となっています。

さらに、巻頭で参考図書が紹介されており、図書館を利用した情報収集も意識されている点で、板橋区の教育事業と関連した学びができると感じました。単元ごとのつながりや系統性を意識した構成も見られ、基礎から応用までの学習を網羅している点が評価されます。最後に、こちらの教科書の内容・構成に当たって、偏りのない、多様で多数の著者が執筆に参加している点は、本教科書で学習できる内容の充実度に反映していると感じさせられました。

次に、教育出版の教科書ですが、単元の初めに学習内容が整理され、学習課題や結論が明確に示されており、生徒が体系的に理解しやすい構成となっています。巻頭に探究の過程が示されており、小学校での学びを意識した内容であることも評価されます。また、「話し合おう」や「活用しよう」といった活動が取り入れられており、思考力・判断力・表現力を養う内容となっています。章末の要点整理や基本問題、活用問題のページは、自学自習にも役立つ内容です。レポートの記入例や総合問題も、生徒の進度に合わせた学習ができるよう工夫されています。

まとめますと、東京書籍と教育出版の教科書は、学習の目標から調査、考察、発表という一連のプロセスが理科の本質に迫る内容として解説されています。生徒が学習内容と生活や社会との関連を意識し、思考力・判断力・表現力を高めるための構成となっていると感じました。デジタルコンテンツも豊富で、写真やイラスト、文字のバランスも適切です。

このような観点から、学校現場での様々な進度別学習への活用、生徒が読みやすく、先生が使いやすいという視点から、以上の評価となります。

私からは以上になります。

教 育 長 善本委員、お願いいたします。

善 本 委 員 よろしくをお願いいたします。

私は、今回、初めて板橋区の教科書採択に関わらせていただくことになりました。他の委員の皆様が言及されていらっしゃるように、また、特に先ほど野田委員が整理してくださった、提供された資料に加えて、各教科書に関する客観的な数値のデータについては、東京都教育委員会が公表している「令和7～10年度使用教科書調査研究資料（中学校）」のデータを参考にさせていただきました。

また、現任校を含め、2つの中高一貫教育校の校長を務めている、あるいは務めた経験も踏まえ、現場の経験も踏まえて、意見を述べさせていただければというふうに考えております。

理科に関しては、ほとんどの教科書会社の教科書が、教科書の冒頭に環境に関するページを設定して、探究的な学びを重視する姿勢を明確にしています。

このことは、現行の学習指導要領の理念に沿ったものであり、また、学習指導要領に示されていない発展的な学習内容についても非常に分かりやすく示してあって、現在の国を挙げて理数教育を重視する姿勢に対しても合致するものとなっています。

また、どの教科書もデジタルコンテンツの活用が示され、ユニバーサルフォントの使用等にも配慮が行き届いていて、どの教科書を使用しても的確な理科の学びを進めることができると期待されると思います。その中で、私は東京書籍と教育出版の2つの教科書について特に推薦したいと思います。

まず東京書籍についてですが、これはもう先ほどから各委員のご説明いただいたことと重複する内容もあるかもしれませんが。全ての学年の内容で探究の流れを確認して、教科書の使い方をページを割いて丁寧に説明した上で、3学年共通の内容で、考察のポイントやレポートのまとめ方、議論の仕方、情報収集や参考文献の示し方等が明示されていて、学習の流れが非常に分かりやすくなっています。

と同時に、先ほど言及がありましたが、「科学の本棚」というページが全学年にあって、学習に関連した書籍が示されていて、これは現行の学習指導要領の中でも、学校図書館を活用する、あるいは読書活動を充実させる板橋区の方針にもかなっている、そういう内容だと思います。

単元ごとに、「社会につながる科学」というページがあって、科学の分野で直

接活躍する人々だけでなく、関連するが、一見すると少し理科とは距離があるかなと思われるような、ケーキデザイナーであるとか、アート集団の代表といった人々に、どのような中学生だったかをインタビューするなど、まさにSTEAM教育、日本の理数教育はSとMだけで間をつなぐものが足りないと言われる中で、理科と世の中とのつながりを感じられる、キャリア教育の視点からも非常に優れた内容になっていると思います。

そして、目次の次に、読み物として整備されていて、「まちなか科学」「歴史にアクセス」「なるほどね!」「お仕事図鑑」「防災特集」「私たちのSDGs」という項目で、3年間、共通で読み物が提供されています。

教科書が読むものとしても魅力的なものになっていると同時に、例えば防災などというのは、非常に生活に根差した重要な視点で書かれているところがよいと思います。

他社でも、理科室の決まりなどの注意のページはあるのですが、巻末に、主な薬品の性質と取扱いの注意が分かりやすく整理して示されていて、学校現場の校長の立場で申し上げますと、理科に関しては、実験は非常に活発に行ってほしいが、常に事故の危険性も隣り合わせている、そういう意味で、注意すべき薬品が分かりやすく示されているということは、理科の実験に関する事故の未然防止の観点から大変よい点かと思います。

また、全学年にデジタルコンテンツの一覧表、二次元コードが示されていることも大変よい点だというふうに思います。

そのような意味で、新しい時代にふさわしい科学を発展的に学んでいく、非常によい教科書だというふうに考えています。

もう1点、推薦しますのは教育出版です。

教育出版に関しましても、東京書籍と同様、巻頭に探究学習について、探究の進め方のページが充実していて、探求のための手順が非常に分かりやすく示されています。

探究の進め方として、疑問を見つける、課題を決める、仮説や計画を立てる、観察や実験などをする、得られた結果を考察し、結論を出す、さらに新たな疑問から次の探究へといった展開が記載されています。

これも、先ほども言及がありましたが、それぞれの単元の初めに、これまでの学習としての既習事項、それから、それを学んだ学年が示されていて、「学習前の私」があり、単元の終わりに「学習後の私」として、何ができるようになったかを自ら振り返ることができるようになっています。これも、冒頭に理科室の決まりと応急処置のページがあり、理科実験における事故の未然防止に効果的です。

先ほど申し上げたように、また、実験の際に注意することや、絶対やってはいけないことというものが、それぞれのページで、赤字のマークで、誰でも分かるように分かりやすく示されています。

巻末の資料が非常に充実していて、丁寧にグラフの表し方や顕微鏡などの道具の使い方が示されていて、主な物質や試薬の一覧に注意点も表示されています。

そして、巻末資料の中に、理科で使う算数・数学のページがあって、教科横断

的に理数教育を行うという点からも大変好ましいと思います。

これは教育出版の教科書に共通する点として、「まなびリンク」として、デジタルコンテンツが充実しています。また、「ハローサイエンス」という項目があって、科学に関する話題を提供しています。

例えば、物理の学習を習っているところで、「ハローサイエンス」のページに、理科の2年生の272ページですけど、「雷の正体」というようなページがあって、その物理の学習と雷の正体ということが生活に根差した形で示されるなど、非常に生徒にとって興味関心を引くような話題が随所に提示されていて、理数教育を推進していくという意味からも、また、生活に根差した疑問を学習を通じて解決していくという視点からも、非常に整った教科書ではないかと思います。

以上のような理由から、この2つの東京書籍と教育出版の教科書を推薦したいと思います。

以上です。

教 育 長 私からは、なるべく他の委員さんの内容と重ならないことを申し上げます。

理科につきましては、学習指導要領の目標のところを見ますと、科学的に探究するという表現が3か所出ています。

最初のところでは、途中は省略しますが、科学的に探究するために必要な観察、実験等に関する基本的な技能を身に付ける。

2つ目の項目には、科学的に探究する活動を通して規則性を見出したり、課題を解決したりする力を養う。

3つ目の項目には、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見るようにするというところで、やはり探究をするということが非常に重要なこととして捉えられていますので、どの出版社のものもそれを意識した内容、教材になっていると思います。ここをまず重視したということと、それから、前回と同じですが、板橋区の生徒や、授業スタンダードにしっかり適合できるタイプかどうかということもポイントになります。

また、板橋区として力を入れているSDGs、こちらも意識されているかどうか、これは理科だけに限りませんが、着目して見比べて、読み比べてみたところでは。

そのような観点で、私も東京書籍、これは現在使っている出版社ですが、を挙げたいと思います。

皆さんもご指摘のとおり、東京書籍は、冒頭のところでも探究するということをしっかり掲げていて、まず教科書の冒頭のところにも教科書のタイトルの前に探究するという言葉を入れ込んできていますので、そのことに対する意識も感じております。

冒頭のところでは、教科書の使い方を押さえようということで、2ページ、3ページのところに丁寧に説明がしてあって、それから、2番目に多様な生徒がいますので、板橋区だけではないかもしれませんが、自分で学んでいく、それから立証する、これはもちろん1人1台端末も使いながらということなのですが、そ

うということが求められてきます。

その上で、この教科書の使い方を押さえようということがきちんと冒頭に書かれているということは、そういう生徒にとってはやりやすい内容になっております。

それから、同じように、探究の流れを活用しようと、確認しようということについても書かれていますので、ここでもきちんと理科の学習方法について、生徒たちがしっかり考えることができる、そういう内容が書かれています。

また、これもご指摘がありましたが、7年生で言うと8ページ、9ページのところに、理科室の決まりというのが書かれていまして、これは結構大事なことで、安全への配慮、理科の実験が、他の委員さんからもご指摘がありましたが、しっかりと捉えられているということが良い点だと思います。

また、読み物としても、結構、充実しています。

例えば2年生の7ページを見ますと、これは目次ですのでリストになっておりますが、身近な題材も含めて、コラム的に読んでもらう内容についても触れられています。

やはり理科の内容は科学的に探究するということですから、その内容がいかに関心を持って自分たちの身近な生活と密着しているのかというところが、わくわくするような授業に結びついていきます。そのような内容がしっかり書き込まれているところも良い点と感じます。

あとは、「お仕事図鑑」ということで、キャリア教育に結びつく内容も書かれていまして、実際に自然科学、理科の内容をお仕事の中で使っている、そういう方々も登場するような形です。

それから、「私たちのSDGs」というページもあって、非常に板橋区としても重視していることですので、理科の授業を通して学ぶことができる点もとてもありがたいです。

あとは、各教材の冒頭のところに、クエスチョンマークとして、最初に課題が書かれています。目当てといってもいいかもしれませんが、学習の目標といってもいいだろうと思いますが、それがクエスチョンマークとして捉えられて書かれていますので、板橋区の授業スタンダードと、冒頭のところから、まずはしっかりと流れを確認して授業を進めていくという、その中身にも非常に適合している、そういう構成になっています。

例えば1年生の128ページ、どの単元も同じことが言えるのですが、必ずこれまでに学んだことと、そして、この単元で学ぶことというのが丁寧に書かれています。

要するに、何が分かっている、あるいは以前学んだものを使って、これから学習する内容があるのかということがきちんと書かれていないと、生徒たちは戸惑ってしまうわけですが、そのことがしっかり記されている教科書だと思います。

それから、この単元の最後のところには、学習内容の整理、確かめの問題、そして活用問題、さらに教えて〇〇さんという形で、いわゆる知識を定着、整理するという、プラス今度は活用するというところ、発展的に捉えていくという

内容まで含めて、この教科書を使えばしっかり学習ができるという構成になっている、この辺りがとてもいいと受け止めました。

もう1社は教育出版になりますが、こちらの理由も他の委員さんとほぼ同じです。

まず、冒頭のところで探究のことが書かれているのですが、例えば中1のところで、冒頭の④ページのところをめくると、SDGsのマークが出てくるということで、教育出版の特徴は、理科に限らず、全体的にSDGsにしっかりと取り組んでいるというか、書き込んでいるところが特徴なのですが、理科についても、折り込みのところを開くと、このマークがぱっと、しっかり出てくるというのが特徴的です。

それから、これは各学年同じなのですが、2ページ、3ページには理科室の決まりと応急処置ということで、これが全て同じ、各学年に同じ内容が書かれています。

こちらは、先ほど申し上げたのと同じですが、やはり理科の実験の安全の確保というのは非常に大事な要素になりますので、このことにもしっかり配慮されているところがいいと思いました。

それから、1ページのところにレポートの書き方というのがありまして、やはり理科の場合、実験をする、そしてレポートにまとめるというのを丁寧にやっていくことになりまして、探究学習としては、きちんとレポートが書けるように注力をしてほしいということですので、これが分かりやすく書かれているというのもよろしいと思います。

あとは、東京書籍と同じように、新しい章に入るとき、あるいは終わるときのところですが、そこもしっかり書き込まれているかどうか確認しました。

例えば2年生の80ページ、新しい章に入るところには、それまでに習ったこと、「おさらい」という表現になっていますが、これまでの学習が書かれ、そして、その後、さらに「学習前の私」ということで、問いかけが、ここにあるのです。

「生物の体を構成する基本とはどのようなになるだろうか？」という形で書かれていて、興味関心を引くような単元も、最初の確認のところ、導入部として非常に分かりやすい表現になっています。

また、逆に章が終わるところではどうなっているかというと、2年生の89ページですが、要点をチェックということで、基本的な知識の定着を確認することと、「学習後の私」ということで、先ほどは「学習前の私」だったのですが、今度は「学習後の私」ということで、学習したことを使って、生物の体を構成する基本がどのような作りなのか、植物と動物の違いを踏まえながら説明してみようというふうに、学習前の自分、そして、学んだ後の私、自分というのを比較できるような構成になっているところが非常に分かりやすいですし、学んだことが理解できて、定着するということが自己肯定感につながる、そういう流れで授業が構成できるところ、可能性があるというのが魅力的でした。

それから、全体に字が読みやすい。大きくて、行間も取ってあって、大変見や

すい教科書になっていますので、視覚的にもしっかりとしている教科書という印象を持っております。

どの本もわくわくするような授業をする際に使える教科書なのですが、以上の2社を、私としては選びました。

ということで、5人の意見を統合しますと、東京書籍と教育出版なのですが、どちらかというと東京書籍の方がよいというご発言が、青木委員と野田委員からございました。

高野委員、善本委員、いかがでしょうか。

高 野 委 員 私も、東京書籍が1番、教育出版が2番で考えておりましたので、その結果でよろしいと思います。

教 育 長 善本委員、いかがですか。

善 本 委 員 私も、東京書籍を1番にさせていただきます。

教 育 長 分かりました。私もですので、それでは、「理科」については、「東京書籍」を仮採択することにご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、「理科」については、「東京書籍」を仮採択することとします。
次に、「音楽（一般）」の審議に入ります。指導室長から説明をお願いします。

指 導 室 長 「音楽（一般）」につきましては、2社でございます。「教育出版」「教育芸術社」から採択をお願いいたします。

教 育 長 それでは、審議に入ります。
まず、青木委員からお願いします。

青 木 委 員 こちらは2社ですね。教育出版と教育芸術社という2社、どちらかという話になってしまいます。

どちらも社会、生活の中で音楽の影響力について詳しく解説されています。

いずれも音楽というのはアウトリーチ活動で、様々なエンターテインメントだけではなくて、色々、先日のオリンピックの中でも、音楽を含めて、世界共通というような方向性があるというようなトピックスがありました。これも含めて、アウトリーチ活動につなげようとしている点、これがどちらも評価できるというふうに思っています。

非常に分かりやすい内容になっているというのも共通事項です。

それぞれの特徴の中で私が感じたことなのですが、教育出版は、学習内容の説

明、「学習MAP」ですか、この学習の進め方、これは丁寧に説明されているのではないかというふうに感じました。

また、各教材のページなのですが、育成をめざすための資質ですとか、能力、それから活動のポイントや、楽器の名手からのメッセージというのも入っていて、音楽的な見方、考え方、このようなもののヒントが示されているな、このようなことは生徒さんにとっても非常に役に立つと思いますし、これを働かせた学習につながるような作りになっているということを感じています。

例えばですと、中学1年生の12ページ、15ページに書いてありますが、解説になっているかなと思います。

また、シングシングというコーナーを設けて歌唱についてこれを生徒たち自ら意識できるように、ページの仕様を含めてですが、ここを促しているところ、とにかく音楽の創造性と主体的に学習に取り組む態度、これを醸成するというような作りになっているということもよくできていると思います。

こちらは、中学音楽の12、13ページ、音楽の2、3の上であれば、15ページ当たり、このような書き物です。

また、デジタルミュージックなどで、「コンピュータで表現しよう」というようなところでは、創作活動でICT機器、これを活用するときの音楽制作アプリの基礎といったところが示されていて、現在の音楽に関わる色々な手立てとか、手段、これも示されている。これが中学校の1の64ページで示されていたりします。

巻末資料の楽典は、教科書、この内容を深く学ぶために必要な知識というのは、非常に整理されてまとめられておりまして、生徒が理解しやすいという点で解説になっているかなと思います。

その他、1学年の例えば58ページでは、日本とアジアの声による様々な場面、これはどちらにもあるのですが、内容としては教育出版がやや充実しているというふうに感じました。

それから、面白かったのが、2、3学年下の32ページ、「CMソングをつくろう」、これはもう地域の名所ですとか、名物を紹介するというCMソングという立てつけで、この捉え方が、板橋であれば地域への醸成につながるというふうに考えていて、とても面白い取組だなというふうに思いました。

一方、教育芸術社の方です。こちらは、思ったのは、やはり大事なものとして音楽著作権の話がございます。

1学年の66、67では、音楽著作権について詳しく解説されていまして、教育出版にもあるのですが、著作権については、教育芸術社さんの方が詳しく書かれているかなというふうに感じています。

もう1つ、1年間の学びというのを俯瞰できるページが掲載されておりまして、学習指導要領の内容、それから、各教材との関連というのが視覚的に捉えられるような作りになっているかなと思います。

例えば中学の音楽の1の8ページ辺りに、このような解説が載っております。

また、「My Voice 1」というコーナーを設けて、歌うときの姿勢であ

ったり、呼吸の準備といった基本的な事項ですね、これについても、感覚的なことをイメージしやすいような表現になっているなということを感じました。これは中学の音楽の14ページになっております。

また、同様ですけど、巻末資料、音楽を形づくっている要素、これにはイラスト、楽譜などを参考にしながら、どの題材で学んできたかが一目で理解できるような工夫がなされているなというふうに感じました。中学校の音楽の1の92ページ、93ページですね。

3冊共通で冒頭の8ページ、9ページに学習内容の全体構成、それから学習内容が示されていて、やはり自学自習という、見通しを持つの学習というのがしやすい作りになっているかなと思いました。

あと、「学びのコンパス」というのが1学年の19ページ、26ページ、それから「My Melody」というのが20ページ、イメージと音楽というものが36ページ、37ページになります。この辺は、多様な切り口から音楽に興味関心、これが高まるように考えられている、工夫がなされているというふうに思いました、どちらも非常によいなというふうには思いました。

参考までに区民の意見も見させていただいたのですが、どちらも肯定的な意見がございしますが、教育出版という方が板橋区にはというようなご意見がございました。

私も甲乙つけ難いのですが、どちらかというと教育出版が板橋には合っているかなというふうに思いました。

以上です。

教 育 長 野田委員、お願いします。

野 田 委 員 よろしく願いいたします。

音楽（一般）について意見を述べさせていただきます。

参考資料や意見については、先ほど申し上げたとおりです。特に家庭学習の教材としての活用を考慮し、各社の教科書を確認いたしました。

私の意見としては、教育出版の教科書を推薦させていただきます。教育出版の教科書では、生徒が音楽的な見方や考え方を深められるよう、各ページにヒントが提供されている点が印象的でした。また、楽器の名手からのメッセージや活動のポイントの記載があり、生徒が音楽を深く理解し、主体的に学習に取り組むために有用だと感じました。

青木委員からのコメントにもありましたが、多様な学習活動の一環として、「コンピュータで表現しよう」という項目があり、ICT 機器を活用した音楽制作の基礎が紹介されている点は、現代のトレンドに沿っており、生徒が現代音楽を理解するための必要なスキルを習得できる内容となっており、新鮮に感じました。

また、歌唱、鑑賞、創作といった分野が色分けされており、バランスよく配置されている点や、学習内容が継続的に発展する構成は、使いやすさの面でも高く評価できます。

さらに「アクティブ」という項目があり、生徒が自身の考えを記載することで、共同学習を促進し、生徒同士が自主的に学び合える場を提供できる点も期待できます。

各学年にリコーダーの運指表やコードネーム表が掲載されており、生徒が必要な情報に容易にアクセスできる構成になっている点、また、教科書のサイズや重さが適切で、音楽の授業で教室を移動する際にも使用上の便宜が図られている点も評価しました。

次に、教育芸術社の教科書についてですが、生徒が学習全体像を理解しやすく、見通しを持って学習に取り組めるよう工夫された構成が非常に優れていると感じました。「My Voice」のページでは、歌唱の際の姿勢や呼吸法が具体的かつ感覚的に理解できるように解説されており、とても分かりやすい内容だと感じました。

まとめとして、教育出版と教育芸術社の教科書は、音楽（一般）における学習事項を理解し、体験を通して自ら考えることで、思考力、創造力、表現力を育成する構成になっていると感じました。また、学習の見通しを立てやすい記載があり、教科書を活用した個別最適な学びに向けた学習目標を意識しやすいと感じました。

各社ともに同様の視点で内容が検討されており、学校現場での進度別学習の活用、生徒が読みやすく、先生が使いやすいという観点から、以上の評価とさせていただきます。

私からは、以上です。

教 育 長 善本委員、お願いいたします。

善 本 委 員 よろしくをお願いいたします。

2つの会社の教科書があるわけですが、これは表紙を見たところで、一見して、両者のコンセプトにやっぱり違いというか、が感じられるところであります。

教育芸術社に関しては、より現代の生徒の好みや関心に寄り添ったというふうな形で作られていて、教育出版に関しては、非常に落ち着いた、また、心穏やかな表紙の中にも深みのあるような表現が使われている。教科書を開くと、冒頭、教育芸術社の方は、まず用いられている人が、生徒たちにとっても、なじみのあるであろう若い世代の女優兼歌手であると、片や、教育出版の方は、最近活躍しているクラシックのピアニストであるというふうなところもあって、それぞれ、どの部分に寄せていくかということに、若干のコンセプトの違いがあるのかなというふうに感じました。

その上で、どちらの教科書も非常に優れていて、どちらで学んでもよりよい学習ができると思いますが、私は、まず教育出版の方からお話をしたいと思います。

他の教育出版の教科書同様、「まなびリンク」によって学習に役立つ情報が非常に充実しています。

また、「学習MAP」で、何をできるようになるのか、今の学習指導要領では何ができるようになるのかということ、何を教えるかではなくて、何ができる

ようになるかということが重要ですが、それが分かりやすく示されている。

また、学習指導要領にある共通歌唱教材が、「日本の歌みんなの歌」という名称とともに紹介されていて、非常に親しみが持てるように示されています。

と同時に、新しいタイプのものとして、「コンピュータで表現しよう」ということで、創作活動にICTを活用するということが想定されているのは非常にユニークな点でよいのではないかなというふうに思います。

また、クラシックや雅楽などの伝統音楽に関わる著名なアーティストから中学生への直接のメッセージが示されていて、そのことによって興味関心を引くことができるということもあると思います。

また、例えば1年生の38ページには、創作に当たって、「日本語の抑揚を生かした旋律を作ろう」というような項目があって、ふだんの日常生活の中では意識しにくい日本語の抑揚を音楽に生かすといったような、学校ならではの、学校で学ぶことでより学びが深まるような内容が、教育出版に関しては充実しているかなというふうに感じました。

一方の教育芸術社に関しては、やはり同じように、冒頭に1年間の学びを俯瞰できるページがあって、学びの全容が分かりやすくなっていますし、学習指導要領に示された共通箇所については、「こころの歌」という表記で親しみを持たせ、さらに、例えば「涙そうそう」とか、「上を向いて歩こう」とか、「歌い継ごう日本の歌」というようなものが別途に示されています。

中学校1年生の最初の歌唱曲2曲についても、作者から直接の中学生へのメッセージが書かれていて、生徒が歌唱する上で共感しやすいように考慮されているというふうに思います。

そのような意味で、非常に生徒の今の音楽の関心に寄り添っているものが多く、例えば中学校3年生の60ページでは、ポピュラー音楽のジャンルということで、海外編、そして、日本編ということで、今の生徒たちにとっても親しみが持てるような音楽についてかなり詳しく書かれていたり、また、先ほど青木委員からも言及がありましたように、音楽著作権についてきちんと説明されている点は非常にこれからの生徒たちにとって重要なよい点だというふうに感じました。

そのような意味で、いずれもまさに甲乙つけ難く、よりよい学びができるというふうに感じますが、音楽というジャンルは、それぞれの生徒が自分自身の個人的な好みや趣味の世界のものでもありますので、一方で学習指導要領に示されためざすべき形があり、また、歴史とか伝統についてもきちんと押さえていく必要があるということと言うと、学校がモデルとして活用するのであれば、教育出版の教科書がより優れているのかなということが私の判断です。

以上です。

教 育 長 高野委員。

高 野 委 員 私は、2社を比べてみて、どちらの教科書も大変分かりやすく書かれていて、大変いいと思ったのですが、鑑賞について考えていったときに、教育出版の鑑賞

について充実している点が大変印象に残りました。

例えば1年の44ページのところで、ここでヴィヴァルディの「春」を取り上げています。

AからEまでのソネットを楽譜で紹介していて、そして、最後の方にそのソネットの楽曲全体の構成を図で整理して分かりやすく説明しています。

そして、次のページでは、ソネットに基づく季節の描写を、「「四季」ってどのような曲集？」ということで、季節の描写を書いています。また、隣のページでは、楽器の編成について、写真を使って詳しく説明していますので、単にこの曲を聞くだけではなくて、楽曲の構成や、また、背景、そして、演奏している楽器の編成などについても分かりやすくなっています。

同じく1年の48ページでは、シューベルトの「魔王」を取り上げています。

この48ページは、シュヴィントという画家が描いた魔王の絵の写真の上にゲーテの詩が書かれています。

また、このゲーテの詩による魔王は、ここで取り上げているシューベルトだけではなくて、たくさんの作曲家によって作品が作られているということで、シューベルトの作品と、ここではライヒルトの作品を聞き比べて、歌曲の形式の違いを比較するようになっています。

同じく鑑賞では、2、3年の下の38ページで、オペラ「アイダ」を取り上げています。見開き2ページの大きな迫力ある写真です。

そして、そこに大規模な舞台装置や多数の出演者たちが映っているステージ全体の写真で、舞台と音楽で華やかに表現されるオペラの雰囲気を感じることが出来ます。

また、次のページでは、主な登場人物について、バリトン、テノール、バス、ソプラノ、メゾソプラノという声の種類と、それから、物語の粗筋などを丁寧に紹介しています。

このような鑑賞について、様々な視点で取り上げている点が教育出版は大変いいなと思いました。

あともう1つ、「Let's Try!」という活動のページがあります。

1年の25ページ。ここで「指揮をしてみよう」というところです。指揮の仕方について、基本の形を身に付けています。

そして、これが、今度、2、3年下の28ページでは、合唱の指揮の仕方についてということで、曲の始まりのところ、歌い出し、山場、終結のときなどの動作を細かくポイントを示しています。

中学校では、合唱コンクールや、また、入学式、卒業式など、中学生が指揮をする場面を多く見かけますが、役立っていくのではないかと思います。

あと、進んで学び合うための活動例として、アクティブというものがあります。

2、3年の下の19ページ、フレーズと形式についてということで、花を題材にして、歌詞は七五調になっている歌曲の歌詞のまとまりと音楽の関係性を考えるページになっています。

4ページのところに、滝廉太郎の「花」の自筆と、それから、その下のところ

るに、言葉として、外国の歌に日本語を割り当てると原曲の魅力を損なってしまうので、日本語の歌詞に基づいた作品を発表して、この分野の発展に役立ちたいという滝廉太郎の言葉が書かれています。このような思いがあることも、先ほどのフレーズと形式について学ぶと同様に、滝廉太郎の思いということを知ることができる1つだなというふうに思いました。

他の委員の方からもご紹介があった資料として、1年の14ページで、「コンピュータで表現しよう」では、音楽制作アプリを紹介したり、著作権、それから、2、3年下の64ページでは、コンピュータと音楽として、作る学習、歌ったり演奏したりする学習、鑑賞をする学習での活用方法と注意点を紹介しているという点で、二次元コードも多くあるのですが、その活用についてもしっかり押さえている点がいいのかなと思いました。

私は、教育出版ということをお願いいたします。

教 育 長 では、私ですが、音楽につきましては、学習指導要領に音楽活動の楽しさを体験すると書かれています。教科書を使いながら授業をし、生徒たちが音楽そのものに興味関心を持って、聴くことが楽しい、あるいは演奏することが楽しいという授業を板橋区では行っていますが、さらに新しい教科書になってもやってもらいたいというところがございます。

どちらの出版社のものも、その意味ではよく作られていて、先ほど善本委員がおっしゃったように、その特徴が違うというだけで、どちらを使っても板橋区の中でいい授業ができる教科書になっていると思います。

教育出版を私も推したいとは思っておりますが、教育出版の特徴は、「学習マップ」というのがどの学年も1ページから9ページのところに書かれていて、これが大変見やすく、分かりやすくなっています。

自分がどの教材でどういう力をつけるのかというのがはっきりしていますので、これが教育芸術社と比べると分かりやすく、見やすく、生徒にとっても見やすくなっているところがよろしいと思います。

あとは各教材のところの下に、学びの目当てが書かれています。

これについても、板橋区授業スタンダードに適合している内容として挙げられます。

それから、鑑賞のページも非常に大事なのですが、例えば2、3年の上のところでは、37ページが西洋音楽、ここはバッハの作品なのですが、右側に歴史年表が書かれているのです。バロックの時代というのがこの右側のどこに当たるのか、ルネッサンスの次がバロックで、次が古典派ということになって、バッハがどこなのかということが分かりやすく書かれているのが特徴的です。

また、49ページは、今度は日本の音楽になりますが、雅楽です。

こちらは、今度は飛鳥時代と平安時代にこの雅楽のことが対応しているのだということが、これを見てはつきり分かるということで、単にその中身だけではなくて、時代背景もしっかり捉えることができるというのが特徴的です。

このようなことも含めて、あとは皆さんと同じですが、「コンピュータで表現

しょう」とか、著作権のこと、それから、書き込む課題、「アクティブ」、これも野田委員がさっき言及してくれたと思いますが、これがとても探究的な学習として使える教材になっていますので、非常に楽しいという教材として挙げられております。

教育芸術社さんについては、特徴的なのは、2、3年の上のところの19ページになりますが、ここに作詞者の言葉、それから、作曲者の言葉というのが挙げられています。

これが非常に特徴的で、これは「夏の思い出」という作品ですが、19ページのところ、右下のところに作詞者と作曲者の言葉が書かれている。このようなところが丁寧で、単にその歌を聴いて理解するというにとどまらず、作り手の方に想いを寄せられる、その背景が分かるということがとてもいいと思っています。

それから、生活や社会の中の音や音楽という題材がありまして、それぞれ1年、それから2、3年の上、3年の下にもありますが、著作権のこと、それから、人と人とをつなぐ音楽、さらには仕事と音楽というページがあって、SDGsについても触れられています。このようなところが非常に特徴的です。

あとは教育出版社と同じで、教材名の下のところに学びの目当てがしっかりと書かれていますので、板橋区授業スタンダードにも適合する内容になっています。

全体として見ると、どちらも優れていますが、教育出版の方が使いやすい構成になっていると思いました。

ということで、皆さんのご意見を総合すると教育出版になります。

それでは、音楽（一般）については、教育出版を仮採択することにご異議ございませんか。

（異議なし）

教 育 長 それでは、「音楽（一般）」については、「教育出版」を仮採択することとします。

では、続きまして、「音楽（器楽合奏）」の審議に入ります。

指導室長から説明願います。

指 導 室 長 「音楽（器楽合奏）」につきましては、2社でございます。「教育出版」「教育芸術社」から採択をお願いします。

教 育 長 それでは、野田委員からお願いします。

野 田 委 員 よろしく申し上げます。音楽（器楽合奏）について、意見を述べさせていただきます。

現在使用されている教科書および各調査研究報告書の関連資料を参考にし、家庭学習の教材としての活用も考慮しながら確認いたしました。審査の観点は音楽

(一般)と同様とさせていただきます。

今回の採択において、私は教育出版の教科書を推薦いたします。この教科書は、リコーダーをはじめとする各楽器の技能を段階的に学ぶことができる構成が特徴的であると感じました。特に、タンギングやサミングなどの技術を習得しやすいように配列や構成が工夫されており、学習指導要領に基づいた知識や技能の定着が期待できる表記や構成が印象的でした。

また、各単元では目標が明確に設定されており、自力解決から集団の学習へと導く内容になっています。これは生徒が主体的に学びに取り組む姿勢を育むために必要であると考えます。

このような構成や内容から、この教科書は生徒が音楽を体系的に学び、さらに深めるための有効な教材であると判断しました。特に、生徒の学習意欲を引き出すための工夫が随所に見受けられました。この音楽の器楽合奏における学習事項を理解するために、生徒が多くのことを体系的に学べる点、また思考力、創造力、表現力を育むために適していることから、教育出版の教科書を推薦させていただきます。

私からは、以上になります。

教 育 長 では、善本委員、お願いします。

善 本 委 員 よろしくお願いいたします。

器楽に関しても、本当にどちらも、まさに甲乙つけ難いというところで、私も色々な判断基準で悩んだところですが、こちらに関しては、明確に1つの判断基準があって、教育出版を推薦したいというふうに考えております。

学校の器楽演奏については、どうしても現場で見ていると、非常に生徒個人個人の習熟の度合いとか、力量の差が出やすいという側面があります。

そのようなときに、教育出版に関しては、その点を配慮して、それぞれの項目の中に、発展ではなく、プラスして学習を深めるという表現の中で、新しいことに、もっとできることに挑戦してみよう。

例えば、チューニングを変えて不思議な響きをとか、新しい音を出してみようとか、音域を広げて違う曲を弾いてみようとか、プラスのマークとともに、それぞれの習熟の度合いに応じて、それぞれが学びやすいような設計ができているというところが非常に優れているというふうに感じました。

それから、両者を比較したときに、手元や口元の写真が、教育出版の方が、全体としてやや大きくて、見やすくなっています。そのようなところも学習をする上で非常によいと思いますし、教育出版、「まなびリンク」、いずれの教科書でも非常に充実していますので、そのようなことをウェブサイトで、動画等も活用してプラスアルファで学習しやすいような設計になっているのではないかなというふうに思います。

ただ、1点、最後のところについているギターキーボードコード表については、これは表現が両者ではっきり違っていて、教育出版は指の写真で示していて、教

育芸術社は指の絵で示しているのですが、こちらは絵で描いてある方が、指の重なる部分で青いマークで示してある分、少し分かりやすい。

これに関して言うと、教育芸術社の方が優れているなというふうに感じましたが、全体として学習を進めていく上で、器楽で合奏したり、個人で演奏したりするときに、子どもたちが主体的に意欲を持って学びを進めていくには、教育出版の方が優れているかなというふうに感じましたので、こちらを推薦いたします。

教 育 長 高野委員。

高 野 委 員 私は、教育出版がいいのではないかと思います。

教育出版の教科書は、各楽器ごとに、名称、姿勢、演奏の順で、バラエティーに富んだ楽曲を掲載しています。

写真や図を多く使って、分かりやすく説明している点、リコーダーについては、タンギングやサミングまでの技能を順序立てて学習できるように、構成や配列等を工夫している点などがいいと思います。

また、各楽器の音の出し方や参考音源の二次元コードが掲載されており、見る、聞く、知るを表すマークが組み込まれているので、生徒が使いやすくなっているかなと思いました。

また、先ほど採択された音楽（一般）との関係でいうと、98ページから「名曲旋律集」というページがあります。このところでは、一般で学習するボレロですとか、アリアの凱旋の行進曲とか、ブルタバ、交響曲第5番ハ短調などが取り上げられているので、（一般）の教科書との関連性でいうと、やはりこの教育出版の教科書の方がいいのではないかと思います。

名曲旋律集は、クラシックだけではなく、ファイナルファンタジーのメインテーマなど、ゲーム音楽として親しみを覚えている、ものを取り上げている点も大変いいと思いました。

私は、以上の点で教育出版がよろしいと思います。

教 育 長 青木委員、お願いします。

青 木 委 員 よろしくをお願いします。

私もほとんど高野委員のご意見と同様なのですが、教育出版の方では、1番、「表現の仕方を調べてみようPART-2」というのが55ページにあるのですが、楽器の特徴を比較検討するためのよい取組なのかなというようなのが個人的に感じたところです。

あとは、例えばですが、教育出版さんの各学期の後半の部分で、学びを深める活動というところで、31ページの「楽器の仲間たち」、56ページの「弾く楽器の仲間たち」、このようなところは、中学の音楽で定められたものから、さらに興味関心がある内容を学習したいという意欲を引き出すところに、それなりの工夫がされているのかなというところを感じました。

巻末の資料等も、ご意見があったとおりでございます。

あと、私も教育出版が、全体的にこの明るい表現で、この辺は、ある程度、カラーユニバーサルデザインというのにも入る、これもなされているかなということは個人的にも感じたところです。

教育芸術社の方も非常によい教科書だと思っております、例えばですが、特徴的なのはアンサンブル曲ですが、これは伴奏の二次元コード、これが掲載されております。

この辺も、生徒が1人で合奏を楽しむというような工夫ですね、これに対する配慮もなされているというところ。

あと、60ページから67ページ、教育芸術社で、ここでいわゆる様々な楽器ということですが、尺八とか、打楽器についても詳しく解説されているというところは教育出版と比べて特徴的だったなというところを感じています。

それぞれ特徴があって、どちらも非常によいというところありますが、音楽（一般）との兼ね合い等々を含めて、板橋区には教育出版が適正かなというふうに感じています。

以上です。

教 育 長 私ですが、学習指導要領の目標の3点目のところに、音楽活動の楽しさを体験することとして、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培うというふうに書かれていまして、特にこの器楽では、表現するという活動が多く出ていますので、やはり楽しく習熟しながら演奏する、表現する、あるいは、他の生徒と一緒に演奏するということを通して、感性を育てることが望まれます。

そういう意味では、どちらの教科書もそれが達成できる内容になっていると私も思います。

私も教育出版がいいと思う理由、一番大きな理由は、この教科書の左上のところに、常に黄色字で〇〇を工夫しようとか、〇〇で表現をしようというのが書かれている点です。

どの教材についても、そのことを表現しようと思ったときに、歌ったり演奏したりしようと思ったときに書かれているのが大変分かりやすい。

これは自学自習するときもそうですし、先生が授業で板橋区授業スタンダードにのっとりやろうとしたときも、ここをぱっと見れば、何に気をつけて、あるいは何を工夫して表現するのかというのが明確になっています。この点が大きなアドバンテージだと捉えております。

それから、他の委員と重なる点は省略させていただきますが、（一般）が教育出版の方の教科書を使うということであれば、器楽の方も同様に教育出版の方を使うという方が、先生方が使い勝手がいいのではないかとことも考えました。

あとは、教育芸術社の方は、43ページのところを見ると、特徴的だったのですが、「My Melody」というのがありまして、このページでは、日本の音階を使ってまとまりのある旋律を作ろうという題材になっているのですが、実

際にこれを見ながら作っていく、創作をしていくというところが、その手順が分かりやすく書かれていて、こういうところは優れていると思いました。この点も挙げておきたいと思います。

ただ、総合的には教育出版の方が板橋区としては合うだろうということで、こちらを推したいと思います。

ということで、全員一致ですので、音楽（器楽合奏）については、教育出版を仮採択することにご異議ございませんか。

（異議なし）

教 育 長 それでは、「音楽（器楽合奏）」については、「教育出版」を仮採択することとします。

次に、「美術」の審議に入ります。指導室長から説明願います。

指 導 室 長 「美術」につきましては、3社でございます。「開隆堂出版」「光村図書出版」「日本文教出版」から採択をお願いします。

教 育 長 それでは審議に入ります。
まずは、善本委員、お願いします。

善 本 委 員 それでは、よろしくお願いいたします。
私は、美術に関しては、第一に日本文教出版を推薦申し上げたいというふうに思います。

とりわけ美術と環境という視点でこの教科書は構成されていて、美術の見方や考え方と、それを探究的に学んでいくという姿勢が非常に明確であるというふうに思います。

例えば、1年生用では、表紙にはスーラの有名な絵画が出ているわけですが、そこを開いていくと、この作品に至るまでの習作が幾つも挙げられていて、それらと比較するということが、この比較ということは、今回の学習指導要領の全体を通して、そうした、美術に限らず、例えば国語などの教科でも、比較をしていく、比較して論じていくというようなことが非常に重要視されている中で、このような形で、完成品と幾つもの習作を比較していくというようなことが閉じ込みのページでなされているというのも非常に面白いテーマで、その比較という意味では、2、3年の上編では、「富士山」というテーマを異なる作家の作品で比較するということが行われています。

そして、3年時は、美術において環境問題を提起するということが本当に提示されていて、発達段階に応じて、多様な視点で作品を捉えて、深く考える、そういう設定になっているということが非常によいと思います。

特に最終学年において、社会における美術の力というページがあって、様々な分野で活躍する3名の人物の言葉で、美術と社会とのつながりを語っている。

これはやはりSTEAM教育を推進していくという流れで、STEAMの一角をなすアートが社会といかにつながっていくかということを学ぶという視点で、大変優れていると思います。

また、作品の題材について確認したときに、表現と鑑賞の題材数が3社の中で最も多い121ということで、光村が91、開隆堂が82ということですが、また、特に表現と干渉との配分が同程度で非常にバランスがよい。どちらにも偏ることなく、表現と鑑賞を適切なバランスで学ぶことができるというのも、この日本文教出版の優れている点ではないかと思います。

そのような意味で、第一にこの日本文教出版の教科書を美術としては推薦を申し上げたいと思います。

続いて、第二候補として推薦するのは光村図書です。

光村図書は、最初の1年生の背表紙に、「美しい」というタイトルで生徒たちの写真がありますが、これは写真家がこの教科書のために生徒たちと協力しながら写真を撮ったということが解説されていますが、そこに谷川俊太郎の詩もつけることで、自分たちの存在を非常に自己肯定感を高めて肯定的に捉えるというような姿勢があって、その中に美術というものを考えていく、「美しい」を探してみようということで、非常に自己肯定感を上げていくというふうな作りで美術が捉えられる点がとてもよいのではないかなというふうに思います。

そして、「発想・構想のために」というページがあり、表現するための発想という視点で丁寧に解説がなされています。

また、資料が別冊になっていて、表現するための様々な手法や材料について分かりやすく説明されていて、日本と世界を比較して、「伝統食図鑑」などというところがあるのも大変興味深く、優れている点だと思います。

別冊の資料がある関係だと思いますが、2、3年次の教科書が、学習指導要領の時間が非常に、美術の場合、複雑だということもあってなのですが、1冊になっている意味で、やや大きさもありますので、ボリュームミーで、持ち運ぶには若干の負担があるかなという感じはいたします。

ただ、その資料が優れていることもあり、全体としての構成としては大変よい作りの教科書になっていると思いますので、これを第二の候補として推薦したいと、光村図書を第二の候補として推薦したいというふうに思います。

以上です。

教 育 長 高野委員、お願いします。

高 野 委 員 私は、まず光村図書です。こちらは、1年の8ページで、教科書を活用しようというのがあり、教科書の構成が分かりやすく説明されています。

各題材の横に目標が3項目に分かれて書かれていて、鑑賞に関するエリアと表現に関するエリアが線で区切られていて、鑑賞から表現、表現から鑑賞へと、授業に沿ったレイアウトになっている点が大変いいと思います。

題材の初めに、鑑賞の視点を示す問いかけをしたり、参考作品の横にポイント

として作品を鑑賞するときに着目すべきポイントが示されています。

二次元コードについて、作品を拡大したり、書き込んだりして鑑賞できる書き込みツールや解説動画、音声、360度写真などを写真入りで紹介している。

また、全国の生徒の作品にアクセスできるということで、紙面以外の参考作品を見ることができるという点も大変素晴らしいと思います。

Webコンテンツでさらに関心を深める題材として、体感ミュージアムというのが6テーマ用意されています。

1年の36ページでは、「風神雷神図屏風」を鑑賞しよう！というところで、見開き4ページを使った、大きく鮮明な写真が掲載されています。

また、その後のページで、音声ナビを使ったり、また、書き込みツール、解説動画、関心を広げる言葉などの様々なコンテンツを見て体感できるようになっています。

42ページのキャラクターが、「笑っている」「怒っている」「どのような表情に見えるかな」とか、「上から見下ろすようなポーズだね。どうしてだろう」などと、生徒が考える手助けになるような吹き出しがあるところも大変いいと思います。

あと、2、3年の12ページのところに、「最後の晚餐を鑑賞しよう」では、展示空間の360度写真や、レオナルド・ダ・ヴィンチ以外の他の画家の最後の晚餐の画像を見ることができるようになっています。

2、3年、66ページの「ゲルニカ」を鑑賞しよう」がありますが、まず60ページに、無差別爆撃を受けた1937年4月26日のスペイン北部の町ゲルニカのモノクロ写真を載せ、その横にゲルニカ作成中のピカソの写真、そして、61から64ページの見開き4ページを使って作品が掲載されています。

60から65ページのインパクトのある作品を見た後に、体感ミュージアム、ゲルニカを鑑賞しようで、この作品が描かれた背景と制作過程を様々なコンテンツを見て体感できるようになっています。

また、2、3年の27から42ページの「日本の絵画を楽しむ五つのキーワード」というページがあります。これは、和紙のような紙質を使用したり、字体や、漢数字を使うなど、日本の絵画の世界を感じさせています。

「鳥獣人物戯画」の一部や、富嶽三十六景「神奈川沖浪裏」が原寸大で紹介されています。

また、見開き2ページを利用して、絵巻物の「鳥獣人物戯画」や、尾形光琳の「燕子花屏風」を載せています。

ここで、またキャラクターの言葉が、例えば28ページの桜の絵を見て、奥村土牛のしだれ桜の作品を見て、「あっ、絵の中にセミが一匹描かれているよ」とか、あと、次の30ページの長沢芦雪の「虎図」襖を見て、「虎だけど、何だかわいらしく見えるね。どうしてだろう」などという中学生らしい発想で、鑑賞のポイントについて話している点もいいと思います。

あとは中学生の制作の様子を詳しく紹介している「みんなの工夫」というところがありますが、それが中学生らしい発想や工夫、作品にかける思いなどが伝わ

ってくる、生徒にとって親しみやすく、ヒントをもらえるページになっていると思います。

あと、もう1社、日本文教出版です。こちらの方は、まず第一に表紙について、これが本当にすばらしいところだなと思います。

表紙を広げると、この裏表紙と表紙で1枚の絵になっている点、すごくいいなと思います。

さっき善本委員からお話がありましたが、スーラの「グランド・ジャット島の日曜日の午後」について、この絵が表紙で、2ページにわたって1つの絵を見ることができます。

そして、表紙の裏のところでは、「美術との出会い」として、この絵の習作を載せたり、また、絵の一部を、原寸大で載せて絵の具を混ぜることなく、明るい色だけをたくさん並べた描き方について着目させています。

2、3年の上の方も、これも同じく、表紙を広げると1枚の絵になっているところが素晴らしいと思います。

北斎の「富嶽三十六景」の「凱風快晴」と「山下白雨」、北斎の描いた同じ富士山を2点と、それから、あと横山大観と片岡珠子の作品を載せて、古くから多くの画家に描かれてきた富士山の作品を通して、多様な表現をよく見る、比べる、知るの3つのヒントを通して、見方、考え方を深めている点も大変いいと思います。

日本文教出版は、折り込みページが充実しています。

1年の24から29ページで、「風神雷神図屏風」と「唐獅子図屏風」。厚めの紙を使って屏風のように折り目をつけて、屏風の鑑賞方法を試すことができるようになっている点もすばらしいと思います。

あとは、2、3年上の26ページで、「浮世絵っておもしろい」というところでは、北斎の「神奈川沖波裏」を原寸大で表現している点と、それから、写楽、歌麿の作品に加えて、浮世絵づくりを支える職人たちとして、絵師、彫り師、刷り師について説明しています。

また、それに関連して、56ページに北斎の大波について、波の表現として2種類の藍色を濃淡を変えて重ねることで、波の躍動感や立体感を表していることについても触れています。

「ゲルニカ」についても、2、3年の下の24ページで、見開き3ページにわたって載せていますが、こちらは絵の横に中学生のシルエットを乗せることで、実際の大きさを想像させて、迫力を感じさせることができます。

2、3年下の34ページに、「どこまで修復すべきか」というページがあります。

こちらでは、フェルメールの「窓辺で手紙を読む女」とレオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」のそれぞれ修復の前後の作品を載せています。

美術文化を継承するために、何を残し、どこまで修復すればよいかを話し合っているページになっています。

同じく2、3年下の54ページに、「絵巻物の世界」というページがあるので

すが、こちらは仏教の教えや物語を表現する絵画として奈良時代から制作されてきた絵巻物の表現形式が、現在の漫画やアニメーションにも通じているとして、隣に「ハイキュー!!」とか、「ONE PIECE」などの人気漫画を並べて、その表現方法として、一点透視図法や残像を表す表現、風や音を表す表現など、これを比べて表現している、解説しているところが大変面白いなと思いました。

本当にどちらも素晴らしいのですが、私は最初に説明した光村図書出版の中学生の制作の様子を詳しく紹介していたり、あと、他の作品にもアクセスできるというような、中学生にとって分かりやすい、親しみやすいというところで、光村を一番、日本文教出版を2番に推薦したいと思います。

教 育 長 では、青木委員。

青 木 委 員 よろしくお願いします。

まず、3社見させていただいて、非常にありがたいなと思ったことがございます。

私は、大学の方で実は芸術学部のデザイン学科というところで講義を持っている中で、今回の3社ともというか、以前からも傾向はあったと思うのですが、昔の美術の教科書というのは、絵とか、彫刻というのが完全に中心だった中で、今回は、デザイン、工芸というところにかなりページを割いて、しかも、先ほど善本委員からありましたSTEAMという観点で、非常に広い学びというところをつなげるような役割も美術の教科書もなっていると、これは非常に感銘を受けて、3社とも素晴らしいなというふうに思いました。

私も、結局、芸術学部のデザイン学科に入れられたときは、大学でもSTEAMが必要だという形で、実は工業デザインの関連で今も講義を持っているわけですが、その辺をこういう中学で展開していただけるというのは本当にありがたいなと、少し前置きになりましたが。

そのような中で、3社の中で、やはりその部分をかなり強調している温度差が見えたということで、前の皆様と基本的に同じなのですが、まず、光村図書ですが、これは面白かったのが、美術の2と3というところの、ページの28から40のところで紙の質感を変えておりますが、そこで表現できる美の在り方というのをまさに質感と知覚で感じさせる、よい工夫がされているかなというふうに思いました。紙の質が変わるとこのようなふうに変わるというふうに思いました。

それから、ページの下部に道徳科とのつながりとSDGs17との関連という形で、色々な他教科とのつながり、例えば美術1でいうと、ページ31で音楽とのつながり、ページ56は英語とのつながりが表記されていて、複合的な学び、興味関心の広がりをもつことができるなというところ。

さらには、別冊資料の1では、描く、作るという、写真、映像、発想、このようなどころの何項目かが36ページにまとめられていて、創造的な作業の取組の重要な情報になっているというところ。

あと、他の委員からお話があったと思いますが、美術の1のページ36、

「風神雷神図」の見せ方、これは美術への興味関心を高められる工夫だなというふうに感じて、いい題材だなというふうに思いました。

もう1社が、日本文教出版です。

この会社もSTEAMというのを私が推したいという意味では、最もそういう工夫がされているなと思ったところを少し紹介させていただくと、美術1の22ページ、「屏風 美のしかけ」では、これは奥行きの見え方の変化を感じ取れるような工夫がされている。ここは視覚的なお話なのですが、光村図書と同様で、ページの下部に道徳科との関連が示されていたり、他教科との関連を示す教材を取り扱っていたりという形で、関連マネジメントの推進を図ることができます。これはSDGsのゴールというところも示されているところが特徴かなと思いました。

それから、各題材の鑑賞の視点を示す鑑賞の入り口というのが書かれています。

参考の作品の横に見方のヒントとなる造形的な視点、これが吹き出しで表記されておりまして、学習指導要領の自分の思いを語ったり、自分の価値意識を持って批評し合ったりするなど、鑑賞の指導を重視するという言語活動の充実につながるというところを痛感した次第です。

それから、STEAMという観点で見ますと、例えば美術の1の36ページ、人の暮らしを豊かに、40ページの「文字が生み出すイメージ」、それから、46ページに、「見るひとへ楽しく伝えよう」、58ページの「発想・構想の手立て」、これは非常に有用な目線だというふうに考えております。

また、美術、2、3上のページ42、43、その1番が心を動かすという観点の捉え方や、特に理系的な視点で言うと、SとTでいうと、P48、49のデザインの力でできること、これはもうSTEAM教育のベースの新たな視点です。

特にRami、それから、分身ロボット、こういう全く新しいものづくりに取り組むというのを、やはり生徒たちに早い段階で広めてもらって、自分たちの可能性というのを感じてもらいたい。そういう意味での美術の教科のこの展開というのは、この教科書の中でやるというのは非常にすばらしい。

それから、同じく下巻の46、47に、「住み続けられるまちづくり」、これはコミュニティデザインという形での重要な切り口あります。

まとめますと、文教出版は、他教科とのつながりやSTEAM教育の意識のみならず、プロダクトデザインですとか、ピクトグラムなんかを中心として、これはもう3社ともなのですが、コミュニケーションデザイン、このような観点からも非常に重要なテーマ、題材を取り上げられているなというふうに感じて、私は、2社の中では文教出版さんを推薦したいというふうに思います。

以上です。

教 育 長 野田委員、お願いします。

野 田 委 員 よろしく願いいたします。

美術についても、現在使用されている教科書および各調査研究報告書関連資料

を参考に、家庭学習の教材としての活用を考慮しながら拝見させていただきました。

今回の採択に関して、私は日本文教出版、光村図書の順に推薦いたします。光村図書と開隆堂については、これまでの委員みなさまのコメントと重複するため、私が推薦する日本文教出版についてコメントさせていただきます。

この教科書について感じた点は、各題材において学びの目標を三つの学習目標に分けて明示していることであり、これは審査の観点とのつながりが明確である点で評価いたしました。また、ページの下部に道徳科や他教科との関連性が示されており、これにより分野を超えた学習に総合的な理解を深める効果が期待できると感じました。

さらに、美術2、3では、ページの下に SDGs の目標と内容を関連づけて学べる記載があり、現代社会における持続可能な発展性を視点に取り入れる学習としても評価いたしました。

内容の詳細について、鑑賞の視点から見ると、「鑑賞の入り口」「造形的な視点」などで、参考作品の横に表示がされていることが非常に分かりやすく、生徒が自らの価値意識を持って作品に関する批評活動を行うことが促進されと考えます。これにより自己表現が深められることが期待されます。この内容は、学習指導要領でも求められている鑑賞の指導を重視するものであり、生徒の思考力や表現力を伸ばすのに最適であると感じました。

また、この表記・表現についても、すべての題材において主文の横に導入、動画、「学びのはじめに」といった二次元コードが設置されており、ICT を活用しながら自主学習が行える有用性も感じました。さらに、漫画やアニメ作品を活用した教材も含まれており、生徒に親しみのあるコンテンツを通じて、さまざまな臨場感や表現方法を学ぶことができます。特に身近な題材を扱うことで、学習への興味や関心を引き出し、学習効果を向上させる点も非常に評価できました。

総じて、この教科書は生徒の美術に対する主体的な学びを促進し、多様な視点からの理解と表現力を育成するために有用であると判断しました。また、学校現場での進度別学習への活用や、生徒が読みやすく、教師が使いやすいという観点からも、以上の評価とさせていただきます。

私からは、以上になります。

教 育 長 では、私ですが、日本文教出版を第一に推したいと思います。

学習指導要領の目標のところを見ますと、「表現」という言葉がたくさん出てきます。「表現方法を創意工夫する」とか、「表現の意図と工夫」ということなので、鑑賞すること、そして、表現することを両方大事にするということがしっくりとできる教科書を選ぶ必要があります。

また、感性を豊かにするというところで、音楽とも共通するのですが、そのようなことができる教科書を選ぶことが重要だと思います。

どの教科書も、本当にその点では優れていて、甲乙つけ難いところはございますが、まず、日本文教出版につきましては、教材の横のところ、冒頭の題材の横

に、学びの目標というのが3つ示されています。これが全部同じマークで示されていて、いわゆる3観点ですが、それが分かりやすく書かれていることによって、先生方が何を狙っていくのか、どのような力をつけるのかというのが明確ですし、生徒が自学自習をするときも、何に気をつけて見ていくのかというのが分かりやすくなっています。

それから、「鑑賞の入り口」というのがあって、これが必ず冒頭に提示されているというところ、これも分かりやすい点です。

それから、先ほど野田委員からもご指摘がありましたが、教科書の下の方に、道徳との関連、それから、SDGsとの関連というのが示されていますので、その点が、単に教科の枠にとどまらず、他の題材との連携、リンクをしっかりと読み取ることができるという点も優れていると思います。

また、「表現のヒント」という項目があって、ここは創作するときに意欲を湧き立てるような、そういう中身になっています。

それから、一番いいと思ったのは、1年生の最初のところなのですが、1年生の6ページ、7ページのところに、1年生の教科書、そして2、3年の上、2、3年の下という、この3冊の教科書のダイジェストの中身が全部出ていることです。このことによって、3年間で美術の時間で一体何を学ぶのかということが明確になるということで、この点が非常に分かりやすく、わくわくするような、そういう中身になっています。

それから、最後に、鑑賞マークが緑、表現がオレンジということで、この2色によって使い分けて、このマークがどの題材にも出てくるところが非常に分かりやすいと考えました。

もう1点は光村図書ですが、こちらもほぼ皆さんと同じなので省略しますが、こちらやはり教材の横の最初の題材横のところに目標が3つ明確に示されていますので、先ほどと同じように、非常に授業がやりやすい、板橋区授業スタンダードにも適合している、そういう教科書になっています。

また、鑑賞の視点、それから、表現のポイントが明確に書かれています。写真もととてもきれいです。

これは高野委員からご指摘があったように、日本の題材のところで、和紙を使っている、これは大変魅力的で、これも優れている点です。

また、これは先ほどの日本文教出版と同じように、道徳科とのつながりとか、SDGsとの関連についても示されています。

さらに言うと、中2、中3の方では、数学科とのつながりというのも、91ページには示されていました。

それから、特徴的なのは、別冊として資料が示されているということで、薄いのですが、これもあえて本編とは別に仕立ててあるところが、様々なスキルを身に付ける際に参考になる資料として仕上がっているのです、こちら大変魅力的で使いやすい、そういう教科書になっていました。

総合的に見ると、日本文教出版を推したいと思います。

さて、4人が日本文教出版で、高野委員が光村なのですが、高野委員、いかが

でしょうか。

高野委員 私も日本文教出版は、表紙を含めて、大変素晴らしいと思っておりますので、皆さんのご意見を聞いて、さらに素晴らしい点を色々発見できましたので、日本文教出版で問題ないと思います。

教 育 長 ありがとうございます。

それでは、5人の意見ということで、日本文教出版ということになります。それでは、お諮りします。「美術」については、「日本文教出版」を仮採択することにご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、「美術」については、「日本文教出版」を仮採択することとします。では、続いて、「保健体育」の審議に入ります。指導室長から説明をお願いします。

指 導 室 長 「保健体育」につきましては、4社でございます。「東京書籍」「大日本図書」「大修館書店」「Gakken」から採択をお願いいたします。

教 育 長 それでは、高野委員、お願いします。

高野委員 保健体育は単位時間の情報量がまずは整理されていて、1時間の学習の流れが分かりやすく、授業では、話し合いや実習を通して、主体的、対話的に学んでいけるという点から、また、小学校との接続という点で、大修館書店を推薦したいと思います。

大修館書店については、まず、口絵、9ページのところで、この教科書の使い方、保健体育の学び方、デジタル教材の使い方というところがあり、学習の流れや、実習や、話し合いを通して学ぶ方法や、デジタル教材の種類や使い方が詳しく紹介されています。

1単位時間が2ページで構成されていて、情報量が絞り込まれていて、全単元で目当てとなる今日の学習とキーワードが示されていて、終末の学習のまとめでは、健康や運動に関する学習課題について、考えたり、調べたり、話し合ったりする活動ができるようになっています。

各章の扉では、小学校、中学校、高校の学習の内容が示されていて、小中高の内容のつながりを確認することができます。

また、5ページでは、中学生がスタッフとして大会をサポートしている、31ページでは、中学生の健康を見守る保健室の先生、63ページでは、中学時代から活躍しているアスリートなど、中学生に関するコラムがたくさん掲載されていて、中学生が身近に感じ、興味を持って学習に取り組めるように工夫されている

点もすばらしいと思います。

他にも、本文中に、授業や給食、部活、運動会など、中学生の写真が多数使われています。

また、スマホに関するコラムが多数あります。「スマホと疲労」とか、「承認欲求とSNS」「見直そうスマホの習慣」「SNS情報の正確性を判断できるかな？」など、様々な視点から取り上げている点もよいと思います。

あとは、実習として、56ページにリラクゼーションの方法、また、116ページで心肺蘇生法、118ページで止血方法、包帯法、固定法など、写真や絵を使って詳しく説明しています。

心肺蘇生法では、胸骨圧迫、AEDの操作、気道確保と人工呼吸などについて、技能ポイントや注意点について、写真を効果的に使って分かりやすくしています。

あとは熱中症と予防の応急手当なども詳しく取り上げています。

あと、もう1社、同じく内容が絞り込まれているという点で、大日本図書を選びました。

こちらでも教科書の使い方、1時間の学習の流れなどが細かく書かれていて、主体的に考え、話し合いながら学んでいけるようになっています。

また、口絵の13、14ページでは、「私たちの生活とスマートフォン」という、私たちの生活に深く関わるようになったスマートフォンとの付き合い方を保健体育の視点から考えるページがあります。

同じく23ページでは、「コンピューターなどの使用による被害」、39ページは責任ある行動、あと、フィルタリング利用などについて、また、97ページでは、「インターネットを利用した犯罪」、SNSの利用についてなどのスマートフォンに関する資料ページがあります。

先ほどの大修館と同じように、心肺蘇生法が106ページで、折り込み3ページを使って心肺蘇生法の流れと胸骨圧迫の方法などを、写真とポイントを詳しく書いた図を使って分かりやすく説明しています。

また、こちらでも114ページに、「熱中症の予防と応急手当」などが載っていて、115ページでは、「熱中症の応急手当」というところは、対処法をフローチャートで1ページを使って詳しく紹介しています。

また、各ページの下に、ミニ知識というところがあります。

学習内容に関した情報が補足的な内容として詳しく説明されている点も大変いいなと思いました。

私は、以上の点で、大修館が1番、2番に大日本図書ということでお願いいたします。

教 育 長 青木委員、お願いします。

青 木 委 員 よろしくお願いします。

保健体育で申し上げますが、私も大日本図書と大修館書店を推薦させていただきたいと思います。

大修館書店の口絵のページ、保健体育を行う上で基本的な考え方を示している点、特に共生社会、未来へ向けての内容に展開するストーリーが非常によく工夫されているなどと思います。

大日本図書の口絵ページも充実しております。食事、スマートフォンの利用法、身近な分野での展開をしている点も評価できる点だと思います。

個別に申し上げますと、まず大日本図書さんの本文の171ページになります。巻頭ページですが、著名人の健康についてインタビューしています。

生徒の興味関心を高めることとキャリア教育につなげることができる点。興味関心を高めるという意味でも、大事ななと思っていました。

それから、小学校とのつながりということで、小学校で学習したこと、それから先ということで、高校で学習することなどが示されていて、つながりを確認しながら学習を進めることができるという点がいいかなと思いました。

その他、みんなで考えるというようなところでしょうか。資料の内容を読み解いて、話し合ってみよう、9ページの項目では、話し合いで授業を展開していく構成になっておりまして、読み解く力を意識した学習の中の展開、これが期待できる内容でもあります。

それから、二次元コードなのですが、このような保健体育は実技が伴っていますので、このようなところが分かりやすいという点で、二次元コードの動画等も大事です。

大日本図書では、1学年で4個、2学年で10個、3学年で6個、巻末に1つという形で掲載されております。この辺も大事だと考えております。

それから、20ページ、21ページにある食生活と健康、これはバランスのよい食事ですね、食育の点、ここも保健体育の中でも大事だと思っておりますし、心の発達についてということを書いた38から41ページ、それから107ページから109ページが心肺蘇生法等が解説されていて、非常に分かりやすい解説になっているかなと思いました。

それから、大修館書店の方です。こちらは少しだけ大きくなっています。192ページで、内容が充実しているということ、写真も多く使われている点を強く感じました。

それと、特徴的なのは、二次元コードが多いなというところでした。

1学年で39個、2学年で49個、3学年で35個、巻頭に6個という形で掲載されておりまして、これは個人的に個別で学習する際に非常に参考になるというところで重要だなというふうに思いました。

それから、章のまとめが、知識・技能、それから、思考・判断・表現、そして、主体的に学習に取り組む態度といった形で構成されておりまして、振り返りには非常に有用なまとめ方だなというふうに感じております。

あと、大修館書店の48ページ、49ページの自己形成、56ページ、57ページのリラクゼーション、この解説が詳しく分かりやすく記載されていて、非常に工夫がされていると思いました。

それから、題材としていいなと思ったのが、もう1点だけ、73ページの「柔

道MINDプロジェクト」というのがあります。

これは、スポーツ・インテグリティ、今、高潔性とかを含めて、アスリートが持つべきマインド、このようなものが非常に世の中でも重要視されている中で、ここを早い段階でというか、教科書の中に取り上げて、これを分かりやすい形で解説しているところ、ここは注目すべきところだなというふうに思いました。

以上ですが、この2社の中で、どちらかというところ、内容の充実度等を含めて、大修館書店を推薦させていただきます。

以上です。

教 育 長 野田委員、お願いします。

野 田 委 員 よろしく願いいたします。保健体育について意見を述べさせていただきます。

基本的に、参考にした部分、教科書の活用、審査の観点については、これまでと同様とさせていただきます。今回の採択において、私は大修館書店、大日本図書の順に推薦させていただきます。

大日本図書につきましては、日常生活におけるスマートフォンの取り扱いや、著名人の健康に関するインタビューの記載、構成の良さについては、高野委員、青木委員が評価されている内容と重複し、私も同様の意見ですので、ここでは推薦させていただく大修館書店についてコメントいたします。

大修館書店の教科書は、構成が「つかむ」「身に付ける・考える」「まとめる・振り返る」というステップごとに整理されており、板橋区授業スタンダードに沿った優れた構成となっています。そのため、学習の見通しが立てやすく、保健体育における課題解決的な学習が進めやすいと感じました。

また、小学校から高校に至るまで一貫した学びを重視した構成であり、児童・生徒が段階的かつ系統的に学習ラインを理解し発展させることができる流れが整っていると考えられます。これは特に、小中一貫教育を推進する本区の教育方針に合致し、学びの連続性が確保されています。

さらに、近年の保健に関する問題である精神的不安、けが、感染症、生活習慣病、飲酒、喫煙、薬物、気候変動、自然災害などの各課題がバランスよく取り上げられていました。青木委員からもご指摘がありましたが、各学年においてタブレット端末の活用方法が分かりやすく解説されている多くのデジタルコンテンツが掲載されており、ICTの活用により、自分の考えを友達に伝え、共有する取り組みが促進される内容になっていると感じました。

また、巻頭の口絵ではSDGsや共生社会の実現といった現代的な課題が取り上げられており、生徒の興味・関心を引き出し、主体的な学習への動機付けが図られています。このような工夫が、現代社会における健康教育の重要性を生徒に伝える上で効果的であると感じました。

これらの観点から、個人および社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉えること、疾病及びリスクや生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けることは実生活で意識しやすい内容であると考え

ます。また、学校現場でのさまざまな進度別学習への活用や、生徒が読みやすく、教師が使いやすいという視点から、以上の評価とさせていただきました。

私からは、以上になります。

教 育 長 善本委員、お願いします。

善 本 委 員 よろしく願いいたします。

今回の現行の学習指導要領の中で、保健体育に関して、課題を発見して、合理的に解決をするということが繰り返し言われています。

体育の中でも、その課題を発見して合理的に解決するということが極めて重要なテーマだという観点に沿って教科書の構成を見たときに、私は最も優れていると感じたのは大修館書店ですので、まず、そちらについてお話をしたいというふうに思います。

この大修館書店の教科書に関して申し上げますと、章の扉で、小学校での学びと高校での学びについての言及があって、先ほど小中高の系統性がしっかりしているということもありました。

その上で、学習ごとに、毎時間、何を課題として、何を解決しようとしていくのかということが非常に分かりやすく示されています。

そして、特に今回の学習指導要領の改訂の中で新たに加わった項目としての、ストレスに関する問題が大修館書店が最も充実しています。

52ページから、心と体の関わりとストレス、それから、続いて、ストレスへの対処の仕方、リラクゼーションの方法、ストレスと心の健康ということで、いじめ問題なども絡めて、ストレスに関して、今回、これを内容として取り入れることということが学習指導要領に示されたわけですが、非常に充実した、また、生徒にとって身近な話題として書かれていることも非常に大事だと思います。

それから、先ほども言及がありましたように、心肺蘇生についても今回の学習指導の中で取り上げられることとなっていますので、そのようなところも非常に充実しています。

それから、先ほども言及がありましたが、全体としてやはりボリュームがあって、保健分野に関してのページ数も140ページということで、他の教科書と比べて最もボリューム的に充実しているということもあります。

また、二次元コードの数も、先ほど来、言及がありましたが、最も多くて、学びを深めることができます。

なおかつ、章のまとめで、知識・技能と思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度という3つの観点について、それぞれ確認し、振り返ることができる問題形式、そこに書き込めるような問題形式、いわゆるテスト形式のような振り返りの項目が章ごとに用意されていて、生徒自身が自分で自分の学習を振り返って、そして、自己調整をするという、今回の学習指導要領の改訂に合わせて、新たに入った3観点での評価のやり方ということが、保健体育においても非常に充実して行うことができるというふうに言えると思います。

そのような意味で、大修館書店について第一に推薦を申し上げたいと思います。
第二に推薦申し上げますのは、大日本図書でございます。

こちらも、先ほど来、言及がありましたが、私ども現場で校長をしておりまして、非常に生活上の大きな課題として、スマートフォンの問題というものがあります。

このようなことを冒頭でしっかりと取り上げているということと、実際にスマートフォンなどに関連したゲーム中毒というのは、深刻化すれば、WHOに認定されているゲーム依存症という病名のついた病気ですので、そのような意味で、子どもたちとの関わりの中で重要なポイントについて、大きく巻頭部分で解説しているということは非常によい点だというふうに思います。

また、その巻頭の部分で、印象的に身近な話題の人物の大きな写真を配置することで、生徒に興味関心を持たせて、保健体育の学びを身近なものとするように取り組まれていると思います。

その学び方も、「ブレインストーミング」であるとか、「ロールプレイング」であるとか、また、外に出ていってフィールドワークをしようとか、色々な形で具体的に保健体育をどのように学ぶかということが示されています。

また、単元ごとに、こちら先ほどの大修館とも同様ですが、学習の狙いが明記されていて、生徒が意識して考えたり、活動したりしやすくなっています。

「つかもう」で導入して、マークとして明示されていますけれど、「やってみよう」「話し合ってみよう」で学びを進めて、そして、最後に「活用して深めよう」と、この学習の流れが非常に明確になっていると同時に、トピックとして、学習と関連が深い話題や読み物が示されていて、学習の広がりが期待できます。

と同時に、学校だけではなく、家や地域で取り組みたい活動がマークで示されていて、学校における学びだけではない、保健体育の学びの広がりということが想定されているというふうに言えると思います。

あとは、先ほど来、皆様から言及がありましたが、新しい学習指導要領の中で取り入れることとされた心肺蘇生法が、閉じ込みページとして、一連の流れが非常に分かりやすく、これは全ての教科書の中で大日本図書が最も優れていたと思います。これを示されているというのは、この教科書の大変優れた点だというふうに感じています。

以上のことから、第二候補として推薦したいと思います。

以上です。

教 育 長 私ですが、保健体育に関しまして、学習指導要領の目標のところの2つ目の項目で、運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて、と自他の課題となっていますので、自分だけがこの知識を獲得して終わりではなくて、他の生徒と共有する、グループ学習をするということも想定されてくると思っています。

そういう意味では、授業の中で、教科書を活用しながら、他の生徒と話し合いをするような、それに有効な教科書を選ぶ必要があると思います。

皆様と同じで、大修館書店を最初に推したいと思いますが、こちらは見開き 2 ページで、非常に分かりやすい構成になっています。

左上の「課題をつかむ」から始まって、最後に下の「学習のまとめ」まで行って完結します。本文があって、その周りに資料がちりばめられているということで、非常に分かりやすい構成で、先生方も授業をしやすい構成になっています。

もちろん板橋区授業スタンダードにも適合する形になっている点がいいと思います。

本文が非常にシンプルで、分量がこの程度であればちょうどいいのではないと思います。

学校の先生方に聞くと、保健体育は実技もありますので、どうしても時間数が限られてしまう。そういう中で、教科書を使いながら授業をすると、非常にシンプルな作りになっている方が使いやすいということがございますので、有効かと思います。

また、他の教科等の繰り返しになりますが、この大修館書店につきましては、7 ページ、8 ページのところに、見開きで S D G s についての解説があるということで、感染症の予防、ごみの分別なども含めて、保健的な趣旨と絡めながら S D G s を大事にするというのが板橋区としては非常にありがたい、そういうページになっています。

小中高のつながり等は他の委員の方がおっしゃったことと同じです。

それから、もう 1 つは、大日本図書で、こちらは、見開き 2 ページなのですが、文章はほぼ左側だけ、明確に、これは多分、意図的にそういうシンプルな作りになっていると思います。

あえて右側が資料編で、やってみようとか、話し合いをしようということで、先ほど私が申し上げたように、グループ学習などがしやすい構成になっています。大変分かりやすく、使いやすい構成です。

冒頭に「学習のねらい」があって、最後にまとめをする。あるいはキーワードが示されているということで、見開き 2 ページで、構成としても使いやすいという感じがします。

内容については、皆様がおっしゃっていたので省略いたします。

ということで、大修館書店を私も推しますが、5 人とも大修館書店ということではよろしいでしょうか。

それでは、「保健体育」については、「大修館書店」を仮採択するにご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、「保健体育」については、「大修館書店」を仮採択することとします。

それでは、委員会の途中ではありますが、議事運営の都合により休憩といたします。再開は 1 5 時 3 5 分といたします。よろしくお願いいたします。

(休憩)

教 育 長 それでは、教育委員会を再開します。次に、「技術・家庭（技術分野）」の審議に入ります。

指導室長から説明をお願いします。

指 導 室 長 「技術・家庭（技術分野）」につきましては、3社でございます。「東京書籍」「教育図書」「開隆堂出版」から採択をお願いします。

教 育 長 それでは、審議に入ります。
青木委員、お願いします。

青 木 委 員 技術分野は3社でございます。よろしくお願いいたします。

大きさは基本的に同じです。この3社の中で、まず、基本的な内容は同じなのですが、実は注目したところが、この技術の本質部分というのを教科書の中でどこまで取り扱っているか。

具体的にいいますと、教科書に使われているマークですね。マークの中で、実は東京書籍と開隆堂は、技術の「トレードオフ」というアイコンを使っています。

世の中が便利になって、色々な道具が出てきているわけですが、その中で、必ずマイナスの面というのが出てきて、この辺の技術の最適化、要するにいい面、悪い面、これはそこを考えるとという視点に立って、そこをマークで示しているというのが東京書籍と開隆堂でした。

あと、もう1つ重要な中に、伝統文化があります。技術の継承という意味ですね。これは3社ともアイコンを用意していたのですが、その違いがあった点。

それから、内容、使いやすさ、この点から、私は東京書籍と開隆堂、この2つを推薦という形で挙げさせていただきたいと思います。

なぜこの2つかという中に、今、アイコン以外に、実はエネルギー変換の項目があります。これは、例えば東京書籍でいうと、160ページに4節リンク、専門用語ですみません。いわゆる大学で言うところの気候学、この入り口の説明がしてあります。

この4節リンクというのは、大学の理工系ではそれを数学で解析しますので、非常に大学生が嫌がる科目の1つです。面倒くさい、難しいという。だから、イメージがしにくい。

ところが、この2つの会社のこの4節リンクの説明は、例えば横ブロックのような道具を使って、あるいはそれに近いような教材を使って、分かりやすく説明しているのですね。

ですから、どういうことに役立つのか、どういう機能を持っているか、そういうことを実際に分かりやすく説明するという意味では、逆に言うと、大学の気候学の教科書、私も書いている本ですが、少し難しく書き過ぎているのかな、興味

関心を失わせているのかなという感じがするぐらい、非常に分かりやすく書かれていました。

非常によくできた教科書、これはもう3社ともそうなのですが、特にこの東京書籍と開隆堂はよく書かれていたなと思います。

どちらもそうなのですが、汎用的な技術の教科書としての完成度が高いという意味では、東京書籍が一步抜き出たかなと思います。

例えば、巻末の④⑤⑥のページで、STEAM教育、ここの重要性を明確に示していただいているというところがあります。

それから、先ほど美術のところでも申し上げましたが、新しいものづくりというところを明確に打ち出しているのが、例えば東京書籍さんの60ページ、64ページ、プロトタイピングというところの項目です。

3DCAD、これでできる製品設計というのを明確に示しています。デジタルプロトタイピングですね。ここを説明している視点が新しいです。

実際に、私学の中では既に小学校ぐらいから、この3DCAD、3Dプリンターと呼ばれる道具をもう入れて、もう自由に試作させようというような特徴的な私学も出てきている段階では、このようなところも教科書の中で意識する段階に入っているのかなと思ひまして、そこをもう既に東京書籍は入れていました。

それから、循環型社会のエコプロダクツとか、デジタルプロトタイピングにも触れているのが82ページというところ。

それから、問題解決への工夫、取組、これに対してもよい題材、これはもう幾つもありましたが、104ページと145ページ、それから214から216、268、269辺り、この辺で問題解決の工夫、ヒント、これに対して非常に分かりやすく解決をしていました。

そして、技術の見方、考え方という、16ページから19ページというのは、設計最適化というところですね。この視点で分かりやすくまとめられています。

これも今のデジタルプロトタイピングと言われるところで、コンピュータ上で非常に最適な設計ということもできるようになっていますので、3DCADというソフトを使って、この辺を意識させるような書きぶりになっています。

また、22ページ、23ページでは、私たちが取り組む問題解決の中に、技術のみならず、もう少し広い視野で、コミュニティデザイン、要するにまちをつくるというところから、これもSDGsの観点として非常に大事なことです、そのデザインの視点で分かりやすくまとめられている点。

それから、56、57ページの思いを形にするプロダクトデザイン、これはもう新しい工業デザインの考え方、これを明確に打ち出しているというところで、これからの新しい時代の、次世代の子どもたちにマッチしたようなテーマがかなり積極的に盛り込まれているなと思ったところです。

また、デジタルコンテンツも353個あって、Dマークで利用できる箇所が示されている点もいいと思います。

また、開隆堂出版さん、これは汎用的な技術の教科書というよりは、より専門的な内容に踏み込むような、先ほど理科でも申し上げましたが、ものづくりの教

育に重点を置いている点というのは、例えば高専さんとか、工業高校でもいいのではないと言われるような内容に踏み込んだ記述がありました。

これは教育図書さんにも共通の観点がありますが、例えば成形の部分で、射出成形、ブロー成形といった、実際に企業の方たちが現場に行かないと分からないようなところというのを既に取り上げて説明していること、しかも、分かりやすく説明しているという、この辺が非常に専門的な内容に踏み込んでいるなというふうに思いました。

また、開隆堂出版さんは、デジタルコンテンツが106以上という形で、非常に多く、ページの上部に二次元コードで示されているということ。

それから、技術が進んで、実習例というところのヒント、これが重要になります。実習例がとにかく豊富です。

材料と加工の技術の実習例は、例えばですが、62ページの絵に、制作の手順、設計や、最後にポイントを記載してありまして、進み方がとても分かりやすくなっております。

それから、扉ページ。ここは非常にいいなと思ったのですが、「ひみつ道具を実現している？」というのは、今後の技術教育に本当に大事だと思っていて、私が授業の中で展開しているテーマとして、SFプロトタイプ、SF小説やアニメの中に出てくるものというのを実現する考え方が重要だよ、実現しようとする考え方が重要だよということを中学生に伝えているわけですが、次世代を担う若者にとっては重要なキーワードだなと思って、それをまさに興味関心を高めるためのコンテンツとして使っている点は注目すべき点としています。

あと、⑤ページですね。企業の製品開発の手順、これは非常に大事にして、物を作るというのは、アイデア段階や試作段階はいいのですが、実際に製品にしようとしたら、色々な手順があるんだということを既に中学生でも頭の中に置いておくというのは非常に大事です。

その緻密さの点で、製図法みたいなのところも詳しく解説されている。この辺もより専門的な内容という意味なのですが、非常に中学生にとっては大事だなと思いました。

それから、面白かったのは、最後なのですが、111ページの様々な栽培方法。これは、検証実験ですね。実験題材としては分かりやすくまとめられているなというところが、少し面白いなと思ったところです。

以上、2社挙げましたが、少し冒頭の方で申し上げたとおり、汎用的な技術の教科書としては東京書籍、より専門的では開隆堂という意味合いでは、板橋区では東京書籍の方がよいのかなという形で、こちらを推薦させていただきます。

以上です。

教 育 長 野田委員、お願いします。

野 田 委 員 よろしく願いいたします。

技術・家庭（技術分野）について述べさせていただきます。

同様に、現在使用されている教科書や各種調査研究報告書等の関連資料を参考にし、家庭学習の教材としても活用できることを考慮しながら拝見いたしました。

今回の採択において、私は東京書籍、開隆堂出版の順で推薦させていただきます。

まず、開隆堂出版についてですが、専門性の高い内容についての解説があり、青木委員からの詳細なご説明にも共感しました。私も同様に高く評価いたしました。構成については、学習の流れが基礎基本、問題解決、技術と私の未来といった形で統一されており、各段階で考え方を働かせながら学べるスタイルに合っていると感じました。また、巻頭には情報機器を取り扱う際の注意点が資料として示されており、生徒が情報に適切に関与できるよう配慮されている点を評価しました。さらに、多くのデジタルコンテンツが用意されており、自主的な学習を支援するツールとして有用であると評価いたしました。

次に、私が推薦する東京書籍についてですが、生徒が技術の見方や考え方を効果的に理解できるよう工夫されていると感じました。特に「技術のめがね」や「最適化の窓」といった切り抜きが掲載されており、興味を引き出す構成になっていると感じました。また、第2章では問題解決の例が設定されており、サステナブルやウェルビーイングといった現代的なテーマが取り上げられており、生徒が主体的に学ぶ姿勢を促進できることが期待されます。

さらに、環境、消費者、伝統文化、防災、情報モラル、SDGs といった重要なテーマに関するページには明確なマークが付けられており、これにより課題意識を持ちながら学習が進められる点を感じました。また、各ページの下部には「技術の工夫」という項目が設けられており、技術を学ぶ際の問題解決や豆知識が紹介されている点も評価できます。デジタルコンテンツも充実しており、技術的な側面にも配慮されていると感じました。

以上のことから、個人及び社会生活における様々な課題に対する意識を高め、実生活で活用しやすい内容であるとの印象を受けました。また、学校現場での進捗別学習への活用や、生徒が読みやすく、教員が使いやすいという観点からも、以上の評価とさせていただきます。

私からは、以上です。

教 育 長 善本委員、お願いします。

善 本 委 員 よろしくお願いします。

私からは、まず第一に推薦するものとして、東京書籍を挙げたいというふうに思います。

学習指導要領の技術分野の目標が、技術における実践的、体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成するというふうになっています。

まさにここで「持続可能な」という言葉が使われていて、教科書の中にもう

「サステナブル」という表現が出てきていて、その持続可能なというところで、巻頭ページでSDGsについて、SDGsについてはどの教科書も必ず取り上げているわけですが、東京書籍に関しては、具体的な、身近な技術に関する内容が17のSDGsのゴールのどれに当たるのかが、写真とともに非常に分かりやすく説明されている点がまず魅力だというふうに感じました。

デジタルコンテンツが充実していることは、皆様のお話にあったとおりですが、この教科書の中で非常に明確に分かりやすいところがあったのは、技術の見方、考え方を最適化の視点で見ようというふうに表現されていて、その「最適化」という言葉が繰り返し教科書の中で用いられるわけですが、技術というものの意味や意義が、最適化という表現によって、分かりやすく、興味を引きつける形で説明されているというふうに思います。

技術で取り組む問題解決という視点が非常に明確で、課題解決型の学習ができるように工夫されていて、一般的な技術の授業という、まさに学習指導要領にもある、実践的、体験的と呼ばれていますから、実習的な時間がある程度割かれるわけですが、こうした実習とか、体験的な活動というのは、注意しないと、物を作って完成して、それで終わりになってしまいがちなんですね。

そういう意味で、問題解決の評価と改善、修正ということを非常にページを割いて大きく説明していて、ものを作って終わりというふうな形にならないように、評価、改善ということが重要視されているということが、この教科書の非常に大きな魅力だというふうに思っています。

少し重複になりますが、技術の工夫が下部に毎ページ出されていること、それから、巻末でSTEAM教育が図式化されている、技術がSTEAM教育をつなぐというふうな、他の教科の学習のかけ橋になるというような視点で、STEAM教育の中で技術を語られているということも非常に大きいところだと思います。

そして、4つの章から成る学びをシステム化して、未来をつくる総合的な問題解決をしようという点で教科書がまとめられ、統合的な、課題を統合するということ、そして、巻末にはSociety 5.0のその先へということで、技術の分野というのは本当に日進月歩ですので、この教科書を使っている何年かの間にも色々なことに変化があると思いますが、常に未来志向で、その先という視点が書かれているということが非常に東京書籍の教科書の魅力ではないかというふうに感じました。

2点目に推薦したいのが開隆堂です。

こちらについては、先ほど来、皆様からお話がありましたように、デジタルコンテンツが400以上あって、開隆堂のものが最も量的には充実しています。

それから、技術の学習の流れが、冒頭、漫画形式で生徒たちが意見を出し合う形で示されている。これを、意見を出し合って技術を学んでいくというところが非常に主体的、対話的で深い学びの視点からよく作られていると思います。

それから、單元ごとに学習の目標が明確に示されていて、学習の終わりにページ下部のチェックによって、自分の学習で何ができたかを非常に分かりやすく振り返るというふうになっています。

そして、單元ごとに学習のまとめが記入できる問題形式、テスト形式になっていて、自分の学びを客観的に自己調整しやすくなっています。

人物イラストが多く用いられて、身近な問題として考えやすくなっています。

また、作業の安全やコンピュータやスマートフォンを使用する際の注意点のところがイラストを使用して具体的に分かりやすく書かれていて、事故の未然防止に役立つと同時に、情報機器と社会との関わりについても、「デジタルシチズンシップ」という言葉を使って、丁寧に説明されている点が非常に優れているところだというふうに思います。

今申し上げたように、様々な課題を身近な問題として考えられるツールがよく準備されていますが、問題解決の姿勢が明確であることは、先ほどの東京書籍と開隆堂と同じでして、それをまた教科書の中で考えながら、読み解きながら書き込ませるような形式も非常によくできています。

例えば126ページの「生物育成の技術の見方・考え方」で、既存の育成方法を読み解こうということで、今まで育成してきたことのやり方のどこがいいところで、どこが課題でということを考えさせるような、そういう仕掛けもできていて、特に生物に育成の技術の見方、考えの分野はなかなか技術の時間って時間を割くことが難しい点でもありますが、このようなところも非常に、一人一人が主体的に考えたり、あるいは生徒同士で対話したりしながら問題解決していけるという姿勢を育成するのに優れているのではないかと思います。

ということで、第一の候補として東京書籍、第二の候補として開隆堂を、私は推薦いたします。

以上です。

教 育 長 高野委員、お願いします。

高 野 委 員 私も3社を読み比べてみたのですが、各社、写真とかイラストを効果的に使って、分かりやすく、丁寧に、また、安全面に対する配慮や制作実習例も十分に取上げていて、3社ともすばらしいと思いました。

その中で、東京書籍について、12ページから25ページの巻頭の技術分野のガイダンスというところが大変充実していて、これから取り組む問題解決の際に検討すべき内容をしっかりとまとめているという点が大変いいなと思いました。

その中で、例えば12ページの工夫、創造の力で技術を支えるというところでは、例として、身近なカッターナイフや消えるボールペンなど、身の回りの製品の工夫を取り上げているところが、中学生にとっても興味を持てる内容ではないかなと思います。

先ほど来、他の委員の方々もおっしゃっていましたが、19ページからの切り抜きの技術の眼鏡、最適化は、漫画を使って最適化ということについて分かりやすく説明しているので、生徒が興味関心を持って、技術の見方、考え方を捉えることができるようになるのかなと思いました。

また、10ページの「SDGsとTechnology」というところでは、

それぞれ、例えば目標の6番と9番、海水から安全な飲み水を作る技術を取り上げていたり、目標の7番と11番、電力の地産地消でエネルギーの効果的な活用など、それぞれの目標が技術分野の学習と結びついていることを示している分かりやすいページだと思いました。

学習の流れが分かりやすく、技術による問題解決に主体的に取り組むことができるようになっていきます。

基本ページの学習内容をもっと深めるために、技術の扉や制作や栽培の基礎技術をまとめた「TECH Lab」というのがありますが、例えば40ページのところ、けがき、切断、部品加工など、問題解決の手順に沿って説明されていて、大変活用しやすいのではないかなと思いました。

各領域の終わりには、「未来のテクノロジー」というコーナーがあります。

例えば83ページには、これからの材料と加工技術について考えようなどという、学習してきたことを踏まえて、生産者、消費者、持続可能な社会の構築などの視点で、これからの技術について、自分で考えて、大切にしたい視点を自分の言葉で書き込むページがある、ここも大変すばらしいなというふうに思いました。

あともう1社は、開隆堂です。

内容については、各委員がおっしゃったとおりなのですが、開隆堂では、巻頭ガイダンスでは、小学校で学習したことを振り返り、身近な製品として、例えばスプーンの形、材質を通して、技術の役割について考えさせています。

12ページでは、ノック式ボールペンの技術の仕組みはどのように考えているかなどを通して、技術の見方、考え方について説明しています。

青木委員の方からお話があった、巻頭3ページ、「ひみつ道具を実現している？」というところでは、ドラえもののひみつ道具にはたくさんの夢があって、現在、未来の技術によって、ひみつ道具を手にする日が来るかもしれないとして、ロボット・カー、自動運転、翻訳コンニャク、自動翻訳機などの例を挙げているので、中学生にとってはすごく分かりやすいのではないかなというふうに思います。

あと、開隆堂では、295ページに、新しいサービスとコミュニケーションというところがあるのですが、これはコロナを契機に急に進んだ技術として、学校の授業のオンライン化や、配膳ロボット、空気清浄する技術、データを共有し、メール化する技術などを紹介しているので、これは少し他の教科書ではなかった視点なのかなと感じました。

以上で、東京書籍が1番、開隆堂、2番で推薦したいと思います。

教 育 長 私ですが、学習指導要領の目標のところには、生活や社会の中から問題を見出して、課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価、改善し表現するというのが書かれていますので、生徒が自分事として捉えて、課題を設定して、そしてさらに言えば技術力を身に付けながら実践していく、取り組んでいく、作っていく、そういう授業が構想されています。

そういう意味では、それに使いやすい教科書を選ぶ必要がありますが、3社と

もとてもよくできていて、どの社のものを採択しても十分にそのような活用ができるものと感じています。

日本の技術は世界トップレベルでして、色々な分野がございますが、物によっては世界一の技術を誇っていますので、そういう意味で、中学生がしっかりとした技術を学び、技術を高めていくということが重要です。同時に、青木委員の話の中にもありましたけれど、世界トップレベルの技術を誇る国ですので、専門家になる人も、中学生の中にはいるはずですから、そういう子たちが見ても、「ああ、いいな」と思えるような、そういう授業を各学校ではしてもらいたいと思います。

その意味では、確かに青木委員がおっしゃるように、専門性の意味では開隆堂なのですけど、総合的に見ると、板橋区には色々な生徒がいますので、東京書籍の方が、私も1番かと思っておりました。

他の委員と重なるので、具体的なことはできるだけ割愛しますが、やはり板橋区授業スタンダードに一番適合していると思うのは東京書籍です。各題材のところ、最初のところが、まず目標というのが明確に書かれておまして、そして、「レッツスタート」、ここでどのようなことを考えて、何を自分たちが作っていくのかということが明確になる。さらに学習課題というふうになって、これが板橋区授業スタンダードの最初の場面、導入部のところで非常に使いやすい構成になっています。

その後、本文です。写真なども豊富に使われていて、分かりやすい教科書です。

それから、最後の学習のまとめというところで、各題材、あるいは章の末でしょうか、具体的にいうと194、195ページの学習のまとめというのが、例えばということで挙げてみると、1番、2番、3番、ここにはいわゆる3観点が出てくるわけですね。

1番が知識・技能、2番が思考・判断・表現、3番が主体的に学習に取り組む態度ということで、振り返り学習としても、この教科書は明確にこの3つの観点を取り上げられていますので、先生方が生徒たちにこの取組をさせた上で、到達度、あるいは習熟度、知識の理解等々、チェックをするということにも使いやすい構成になっています。

それから、SDGsについても、先ほどお話がありましたが、全体としては、色々なところで掲げられていますし、冒頭の10ページ、11ページのところにも、「SDGsとTechnology」が掲げられていて、板橋区としても力を入れていることですので、大変ありがたいと思います。

このような点を踏まえて、東京書籍を推奨したいと思いますが、野田委員も東京書籍でしたか。

野田委員 はい。

教 育 長 ということで、5人とも東京書籍を一推しですので、それでは、「技術・家庭（技術分野）」につきましては、「東京書籍」を仮採択することにご異議

ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、「技術・家庭（技術分野）」については、「東京書籍」を仮採択と
いうこととします。

では、続いて、「技術・家庭（家庭分野）」の審議に入ります。
指導室長から説明をお願いします。

指 導 室 長 「技術家庭（家庭分野）」につきましては、3社でございます。「東京書籍」
「教育図書」「開隆堂出版」から採択をお願いします。

教 育 長 それでは、審議に入ります。
それでは、野田委員、お願いします。

野 田 委 員 よろしくお願いします。
家庭について意見を述べさせていただきます。
私の方で、今回の採択においては、家庭分野について東京書籍、開隆堂出版
の順で推薦いたします。

開隆堂出版の教科書は、学習の目標から始まり、「やってみよう」「考えてみ
よう」「調べてみよう」「話し合ってみよう」という流れで適切に構成されてお
り、主体的、対話的で深い学びを实践できる点が評価されました。また、調理実
習の例が豊富に記載されており、食品の実寸大写真だけでなく、切った後の写真
も掲載されているため、実習前のイメージ作りに役立つと感じています。さらに、
多くのデジタルコンテンツが用意されており、自主的な学習を支援するツールと
しての活用性も評価できました。

次に、私が推薦する東京書籍についてですが、各編の導入ページではキャラク
ターのセリフを用いて問題発見や問題設定が示されており、特徴的だと感じまし
た。また、「知りたい」「できるようになりたい」という項目にチェックを入れ
られる仕組みがあり、課題を明確にすることで授業において非常に効果的だと思
いました。学習の流れに関しても、目標、始めの活動、学習課題、本文と発見、
そしてまとめの活動といった構成がしっかりしており、これにより主体的な課題
解決が促進される点が特徴的です。

さらに、家庭分野に関連したガイダンスもあり、中学校と小学校の学習内容が
見開きで提示されているため、小学校での学習が中学校の学習とどのように重な
り合うのかが分かりやすく工夫されています。この点も非常に評価できるポイント
です。また、この教科書もデジタルコンテンツが充実しており、技術的な側面
にも配慮されています。

以上のことから、個人や日常生活における問題発見や問題設定の意識を高め、実
生活で活用しやすい内容であると評価しました。また、学校現場でのさまざまな

進度別学習への活用や、生徒が読みやすく、先生が使いやすいという視点から、以上の評価とさせていただきました。
私からは、以上になります。

教 育 長 善本委員、お願いします。

善 本 委 員 よろしくをお願いします。

それでは、できるだけ重複を避けてということで、お話を申し上げたいと思います。

私は2つの教科書を推薦したいと思います。東京書籍と開隆堂ですが、これに関しては、少し現時点で、どちらが1位というふうに申し上げにくいということでお話を申し上げておきたいと思います。

東京書籍に関しましては、非常に情報が充実していて、多方面に配慮が行き届いていて、新たな学びが多くあるということが言えると思います。非常に情報が多いです。

具体的に申し上げますと、例えば102ページ。これは地方の食文化に関する内容のものです。日本各地の郷土料理が、非常に多数、写真とともに取り上げられていたり、また、108ページで、実習例として、サステナブルクッキングに挑戦しようというような、そういう、まさにSDGsの観点から、それを「サステナブルクッキング」というような表現で、そのような調理について挙げていたりとか、非常に新しい考え方に基づいて、様々な情報を提示されているなというふうに感じます。

また、そういう意味での配慮が行き届いているところとして、68ページには、包丁の持ち方について、左利きの例を取り上げているといったところも配慮が行き届いているというふうに感じます。

そのような意味で、情報量が多く、多様な学習ができる、また、調理実習についても、参考例という形で、重要なものは大きく示しながら、参考例という形で種類が多く示されているのも、様々な学ぶときに有用ではないかというふうに思います。

一方で、東京書籍に関して、若干、私が気になるところは、今回の学習指導要領の改訂で、小中学校においては、家族・家庭生活、衣食住の生活、消費生活と環境に関する3つの枠組みに整理することが適当であるというふうに具体的に改善内容が示されているのですが、中身を見ていくと、そのように整理されていくということは分かるのですが、他の2社に関しては、見出しがはっきりとその3つに分類されるのに対して、6編編成になっているために、少し分かりにくいところがあって、その部分は若干気になりますが、実際の内容面ではきちんとそれが整理されているところでは、大きな課題ではないのかなというふうに思っています。

一方で、開隆堂に関しては、明確にこの3つの分類だった上で、主体的、対話的で深い学びに沿って、SDGsについて、教科書の冒頭で、具体的で、印象的

な写真とともに示されています。

それから、見ていると本当に分かるのですが、調理実習が非常に大きく分かりやすい写真で示されている。1ページを使って大きく料理の出来上がりを示しながら、イラストなども大きめで見やすくなっているということです。

例えば104ページから105ページの食べ物が体内でどのように消化するかなどの見開き図も非常に見やすく、分かりやすく、興味深い資料ではないかなというふうに思います。

章ごとの学習のまとめで、多くの問題数が示されていて、自分で書き込んで振り返りがしやすくなっていて、また、思考、判断、表現や主体的に学習に取り組む態度に関しても、よく関連した内容になっていると思います。

そのような意味で、情報が充実して、多様性に配慮して、多方面に多くの学習ができるという点で東京書籍、学びやすさ、見やすさ、そのような点で開隆堂にそれぞれ優れた点があると思いますので、現時点では非常に悩んでいるところです。

私からは、以上です。

教 育 長 高野委員、お願いします。

高 野 委 員 私も、東京書籍と開隆堂がいいと思いました。

善本委員と同じで、私もどちらが1番と決められない、それぞれよい点があるなというふうに思っています。

東京書籍は、1編の「未来につながる家庭分野」から最後の「生活の課題と実践」まで、自立から共生のストーリーとなるように配列されています。

16ページ、17ページの自分の生活のチェックでは、食、衣、住などの項目について、1年の最初と学習後にチェックして、グラフに表して、自分の成長に気づき、3年後に「なっていたい自分の姿」について書き込む欄があります。

あとは20ページのところに、私たちの家族と家庭生活というところがあるのですが、「いろいろななかぞくのほん」という絵本や、アニメ漫画などで見る家族の例として、サザエさんやクレヨンしんちゃん、MAJORなどを通して、色々な家族の形があることを、中学生にとって分かりやすくイメージできるようになっています。

大きくて鮮明な写真が使われていて、44、45ページでは実物大の食品の写真を使っているので、1日に必要な食品と材料が一目で分かるようになっていて、調理実習などの作業の様子や手順、配慮事項が細かく丁寧に分かりやすく書かれている点も大変すばらしいと思います。

続いて、開隆堂ですが、26ページ、様々な家族、家庭の様々な暮らし方というところで、2人親と子ども、3世代家族、父親と子ども、母親と子どもの他にも、国際結婚や児童養護施設、里親など、様々な形があることをイラストで紹介して丁寧に取り上げている点が印象に残っています。

また、28ページでは、男は外で働く、女はうちで働くではないというふうに、

性別で決めるのではなく、その人の意思を尊重するために、これまでの社会通念を見直すことが求められているということに触れて、未婚女性の理想のライフコースと未婚男性が将来のパートナーに期待するライフコースのグラフを見て、今後、家事関連時間が男女でどうなっていけばいいのかというのを考えさせています。

あと、31ページでは、ヤングケアラーや、32ページでは里親の下で育った本人の声を取り上げていて、色々な家族関係があり、その家族関係も年月とともに変化していくことを紹介しています。

36、37ページでは、困ったときにはしっかり手続きしようとして、生活を支える制度を紹介しています。

その他、中学生の取組を多数取り上げている点や、あと、調理実習の例の掲載では、実生活で試してみたいくなる献立を取り上げていて、手順や注意事項が細かく示されていて、ページの下ところに「調理方法Q&A」があるのですが、これが実生活で大変役に立つ情報、知識がたくさん書かれているなと思いました。

あと、276ページに、事例を通して消費者の権利と責任を考えようというページがありますが、これは自転車を購入して、その自転車に乗って事故が起きてしまったという事例を通して、フローチャートを使って、8つの権利と5つの責任を確認しながら話し合っているページで、事例を通して様々な場面で考えることで実生活に生かすことができるページとなっています。

他の方のご意見も聞いて、東京書籍と開隆堂の順番については考えたいと思っています。

教 育 長 青木委員、お願いします。

青 木 委 員 3社の中で、私が注目したのが、東京書籍さんと開隆堂さんです。

どちらもガイダンス部分の内容が充実していてよいなと思いますし、家庭生活、食生活、それから、住生活、消費生活、それぞれについて比べてみたところ、開隆堂さんは全体で312ページ、それから、今の4分野に関しては、開隆堂さんの方がページ数が多くて、専門的な要因に踏み込んでいるのですが、東京書籍さんは291ページですが、必要十分な内容を提示して、デジタル教材で補っているという印象です。

とにかくデジタルコンテンツに関しては、東京書籍さんが8種類、373個という形で非常に多く、家庭分野もやっぱり実物を見たり、動画を見たりというところが非常に大事なかなと思ったので、ここの情報量という点では、善本委員が言われたとおり、東京書籍の方が充実度ではトータルではいいかなという感じがしました。

あと、東京書籍は、1編である、「未来につながる家庭分野」から最後の「生活の課題と実践」という、ここまでが自生から共生のストーリーになるように配列されているというところが非常に工夫がなされているなと思ったところです。

あと、やっぱり開隆堂さんは、巻末の「生活の課題と実践」、これは自らの取

組を考案するという際には、非常に参考になるよい資料であるというふうに思いました。

あと、東京書籍、もう1点だけ。「自分の生活チェック」という、16ページにある、これは生活習慣を見直す、中学生はとにかく生活習慣、学習習慣の確立というところが中一は始まるのですが、ここが非常に大事だと思っている中で、この家庭の中で生活習慣の確立を意識させるようなよい題材というふうに感じたので、ここは非常に高く評価すべきところかなというふうに思いました。

ということで、どちらもよいというところ、あと、少し個人的に注目したのは、この2社の日本各地の郷土料理です。これは非常にちりばめられていて、非常に多くを網羅されているなというところで、よかったなというふうに、この2社を選びましたが、随分悩んだのですが、やはりトータルの情報量では東京書籍さんの方が少し多いかなと思ったので、私はどちらかというと東京書籍さんを推薦したいと思います。

以上です。

教 育 長 私も、2社です。東京書籍、それから開隆堂出版を推したいと思います。

家庭分野につきましては、やはり衣食住もそうですし、家庭、家族、それを取り巻く環境という視点、様々な形で身近な自分たちの生活として捉えて学んでいく、そういう授業が求められています。

その意味では、3社とも、どれを選択しても十分な内容が入っていると思いますが、その中でも東京書籍は、総合的に見てよくまとまっていて、情報量として、二次元コードを含めて、先ほどの委員のお話もありましたが、網羅されていると私も思いました。

まず、3つとも、重なることもあるのですが、見開き2ページになっておりまして、先ほどと同じ、まず左上に目標があり、「レッツスタート」があって、そして、学習課題が出てくるということで、この冒頭のところ、導入部は、板橋区授業スタンダードに適合する構成になっています。その後、本文が続いています。

さらに、家庭科の場合、資料編も充実していて、見開き2ページですと、主に右側になりますが、資料編があり、最後にまとめようとか、考えようとか、生活に生かそうというような、右下に行けばそういう構成で、先生方が授業しやすい構成になっているのが特徴と思いました。

それから、「学習のまとめ」、先ほどと同じなのですが、章のまとめのところには3つの観点で示されていて、知識の整理、そして、発展的な学習にも資するような中身が書かれています。

さらには、他教科との関連についても明確に示されていることも特徴です。

それから、「プロに聞く！」というページが、例えば243ページにはありまして、仕事を絡めて、キャリア教育の視点で捉えることもできるという点で非常に使いやすい内容になっております。

そして、開隆堂ですね。こちらとても分かりやすい本で、委員の皆様からのご指摘のとおりで、私も同じように見ました。

こちら、見開き 2 ページになっていて、左上から始まって、学習の目標で、課題があり、本文があつて、最後、右下に行けば考える・やってみようとなっています。

授業では、教科書を活用し、さらに調理などがある場合には、教科書を離れて実際に取り組むという時間がありますので、シンプルな作りで見開きになっているというのは分かりやすい構成だと思います。

それから、「先輩からのエール」ということで、例えば 85 ページには、仕事の視点でキャリア教育の観点も入っていて、コミュニティハウスの方、それから、絵本作家の方がここには登場してきます。

ということで、身近なところから、そして、幅広く社会に向けて環境を考えていく、そして仕事の面でも捉えていくというところの構成が、とても板橋区の生徒たちにとっても分かりやすく、刺激になる内容だろうと思います。

どちらも優れているのですが、総合的に見ると、私は東京書籍の方を推したいと思います。

ということで、3 人の委員が東京書籍で、2 人が開隆堂ですが、高野委員、いかがでしょうか。

高 野 委 員 内容的には東京書籍でも十分だと思うのですが、先ほど少し申し上げた、様々な家族、家庭のこととか、より深く踏み込んだ内容だなということで、開隆堂がいいなと思いました。

しかし、今まで東京書籍を使っているということもありますし、総合的な対応の点から言っても、東京書籍の教科書を採択することに私は賛成です。

教 育 長 善本委員はいかがですか。

善 本 委 員 皆様のご意見を伺って、私も東京書籍ということでお願いできればと思います。

教 育 長 それでは、「技術・家庭（家庭分野）」について、「東京書籍」を仮採択することにご異議ございませんか。

（異議なし）

教 育 長 それでは、「技術・家庭（家庭分野）」については、「東京書籍」を仮採択することとします。

次に、「英語」の審議に入ります。指導室長からご説明をお願いします。

指 導 室 長 「英語」につきましては、6 社でございます。

「東京書籍」「開隆堂出版」「三省堂」「教育出版」「光村図書出版」「新興出版社啓林館」から採択をお願いします。

教 育 長 それでは、審議に入ります。
 まずは善本委員からお願いします。

善 本 委 員 よろしく願いいたします。

英語に関して、私は、今、中高一貫校の現場の校長として、様々な現実の課題認識を持っていますので、特に小学校で英語が教科化されてから4年が経過しました。

前の教科書を選ぶときには、まだ小学校で十分に学んでいない人たちが中学に入ることだったと思いますが、もうこの4年を経過して、小学校での教科化がある程度定着しつつあるという流れの中で、ただし、その定着の中身に、率直に申し上げると、かなりばらつきがあるという実態があって、その中で、それらをいかにポジティブに受け止めながら取り込んでいくかということを教科書を見る上で、1つのポイントとして拝見させていただきました。

そうしたことも含めて、様々な視点で検討して、私は東京書籍の「NEW HORIZON」を第一に推薦したいというふうに思います。

非常に、皆さん、まず、ご覧になってお感じだと思いますが、大きなサイズで、文字が見やすく、非常に明るい構成になっているということが言えるというふうに思います。

そして、4技能をもちろんバランスよく教えていくということが、今、非常に大事だと言われている中で、特に日本の生徒に弱いとされている発信する側の力、しかも話すことの中でも、特にやり取りのレベルの高い発表という部分に、他の教科書会社と比べて多くのボリュームを割いています。

発表レベルの問題に12.8%、そして、書くことも最もボリュームが多くて19.1%ということで、発信する力をより重視して育成していくということが、今の子どもたちの課題認識に適合しているかなというふうに思います。

そのような意味で、教科書の中で扱っている単語数は、他社と比較して比較的少なめなのですが、ただ、発展的な内容は取り入れられているので、それぞれ生徒の実態に合わせて指導を展開していくことができるのではないかなというふうに考えています。

先ほど申し上げた小学校での英語の教科化を踏まえて、小学校で既に学んでいることを踏まえた設計としつつ、原点に戻って学び直しもできるように、教科書の冒頭に「小学校で学んだことを基に」と記しつつ、単語を丁寧に書くとか、文を正しく書くといった説明や、アルファベットの音と書き方が丁寧に説明されていて、読み書きのコツというような表現で、このようなのをやったじゃないかではなくて、振り返られるような、それぞれの実態に合わせて振り返られるような設計になっているところが魅力だというふうに思います。

それと、日本語と英語の違いの最も大きい部分で、子どもたちがなかなか理解できないのは、日本語においては、私は自分が国語の教師だからすごくそういうふうに常に思うのですが、日本語では語順というのはほとんど重要ではない。助詞がつないでくれるので、単語の順番が入れ替わっても意味は通じるのですが、

英語は、ある意味、誤解を恐れずに言えば、初学においては語順がほとんど全てと言っていいぐらい、語順が重要だと思います。

それが日本語との大きな違いなので、1年生では50カードが巻末に置かれていて、2年生と3年生では、基本的な音の発音と例外的な発音が同じ内容で整理されていて、繰り返し確認できるようになっている、そのようなところで常に戻っていった、まとめなければならない重要なポイントがきちんと押さえられているというふうに思います。

また、「Real Life English」という項目で、日常生活に根差した英語活用が、年次ごとに、当然ですけど、レベルアップして、中3ではディスカッションや講演やテレビの国際ニュースなどまで取り上げられているというところで、学びの成長が期待できるというふうに思います。

先ほども申し上げたように、教科書が大きく、文字のフォントも大きくて見やすく、CAN-DOリストも、もちろん他社でもありますが、全学年で示されていて、マトリックスで、何ができるようになるかということを、教科の教師側も目標設定しやすく、また、それぞれの子どもも目標設定しやすい設計になっていると思います。

そのような意味で、総合的に東京書籍が優れているというふうに推薦したいと思います。

私は、2番目に推薦を申し上げるのは光村図書です。

光村図書も、先ほど申し上げた小学校での英語学習の復習が閉じ込みページになっていて、動物のイラストを活用するなど、これまで、もしかしたら小学校で学んで英語が苦手だった生徒も関心を持てるような設計になっています。

光村の場合には、先ほどの東京書籍とは違って、聞くことの分量が35%ということで、非常に聞くことの分量が充実しています。

そして、全ての学年の冒頭に、「ICTを活用しよう」という閉じ込みページがあって、ICTを活用した学びについて、イラストで分かりやすく説明した上で、タブレットを使うときに気をつけることなどについては、別途に二次元コードがついているなど、そこで動画で著作権などの配慮にも言及されているということで、非常に行き届いています。

また、2年生の教材の中で、防災や自然災害に関する扱いが非常に充実していて、災害に備えるということを英語でというのが、実生活の上でも大変実用的であって、実際にそういうことが起きた場合に、日本語が通じない人に対してどういうようにアプローチをするかというふうなことが具体的に設定されているのが非常によいと思います。

元に戻って、中学校1年生のための「英語の学び方ガイド」という充実した資料が中1の後ろについていて、4領域ごとに説明がされていたり、それぞれの学びのコツが示されていること、それから、改めてここにヘボン式のローマ字表があるのですが、実は私たちが日常生活で使うローマ字はほとんどヘボン式なのですが、小学校では訓令式で学ぶのですね。

それが非常に子どもたちにとっては混乱の元でもあり、訓令式のローマ字があ

り、ヘボン式のローマ字があり、英語の読みがあるというところで、そのようなことを配慮して、小学校の学習にも配慮して、中学校で改めてきちんと学べるような工夫がされています。

また、ストーリーにおける登場人物が最初に説明されていますが、人種や国籍など、多様性に配慮する姿勢が明確になっていて、人物イラストが統一されていて非常に分かりやすいです。

また、光村も、CAN-DOリストが閉じ込みで整理されていて、何ができるようになるのかということを、教師側も、生徒側も非常に明確にしやすい設計になっていると思います。

ということで、総合的に判断して、東京書籍を第一に推薦し、2番目に光村図書を推薦したいと思います。

以上です。

教 育 長 では、高野委員、お願いします。

高 野 委 員 私は、英語は小学校とのつながりを、まず一番に考えました。

また、授業の目標や活動が分かりやすく、活動を通して、読解から言語活動へと無理なく楽しく学習を進めていけるものという点で、東京書籍と、私も光村図書出版と、この2社がいいのではないかと思います。

東京書籍は、1年の導入部分をとても丁寧に扱っていて、1年の巻頭の「学習の流れをイメージしよう」では、1年間の学習についてロードマップで紹介しているので、生徒が1年間の学習の見通しを持つことができ、また、2ページからの学習のポイントを確かめようでは、単語や文を書くときのルールや辞書の使い方、英語らしい発音のポイントを確かめることができます。

Unit0が、小学校で学習した単語や会話を通し、復習しながら中学校の学習につなげている点、この点が大変いいと思いました。

単元のゴールはユニットの初めに書かれていて、Unit Activityの最後に振り返りができるようになっています。

途中、「read and think」のコーナーでは、「Round1」では、概要をつかみ、「Round2」で詳細を押さえ、「Round3」で題材を基にして考えたことを表現するというように、視点を変えて、読解から言語活動へとスモールステップでつなげる構成になっていて、生徒にとって大変分かりやすくなっています。

先ほど善本委員の方からもあった、「Real Life English」として、生活の様々な部分で使える活動が多数、例えば1年では、レストランで注文するとか、2年では、機内放送を聞いて必要な情報を聞き取るなどのリアルな場面で英語を使う活動が設定されています。

また、1年の57ページに、「夏休み特集」というところがあるのですが、これは、アニメを見ながら、1学期に学習した表現を復習して、下に夏休みの絵日記を書くページがありますが、1学期に学習したことをしっかりと復習して2学期につなげることができる内容ではないかと思います。

次に光村図書出版です。

こちらも1年の6ページから25ページの「Let's Be Friends!」は、19ページにわたり、会話を通じて、小学校で学習したことを復習し、ゲームをしたり、実際に書く活動を通して中学校の学習につなげていって、小中連携をととても丁寧に扱っていると思います。

また、3年間の学習がストーリー仕立てになっていて、2、3年では、「Play Back the Story」で、前の学年のストーリーを振り返っていくために、生徒は親しみやすく感じながら学習に入っていくことができるのではないかと思います。

また、1年の70ページでは、落とし物の持ち主を探したり、2年の68ページでは、電車の乗り換えなどを調べたりする「Daily Life」や、また、グループで共同的に活動する「You can do it!」で、町の観光プランをお勧めしたり、学校生活について意見をまとめたりする、実際の生活の中で生かせる場面設定がされています。

あと、最後に、巻末に、その場で会話する力を伸ばせる、閉じ込みの「Let's Talk!」や、1年の145ページの「英語の学び方ガイド」など、学び方に関する資料が豊富に掲載されている点も大変素晴らしいと思います。

学び方ガイドは、Q&Aで、生徒の悩みや質問に対して、具体的な方法で例に示しているので、生徒が自分で学習に役立てることができると思います。

以上で、東京書籍が1番、光村図書が2番ということでお願いいたします。

教 育 長 青木委員、お願いします。

青 木 委 員 私が最初に申し上げたいのは、私も現場に身を置く身としては、英語というのは4技能の重みの見方で、教科書選びというのが全く異なってくるというのがございます。

小学校では、ご存じのとおりですけど、コミュニケーション能力を上げるために重視してしまして、英語が楽しく学べるといったような形で、どちらかという会話に対して慣れるというか、記憶の教育的なところがあるかなと思っているのですが、中学からは、やはり具体的に申しますと、高校受験ですとか、大学受験を意識して、4技能というところをバランスよくやろうということになっています。

具体的に言いますと、例えば高校受験のために英検3級以上を取りましょうとか、そういうことになると、小学校ではあまり多く学ばなかったリーディング、ライティング、それから、文法がいきなり出てきます。

実は私の学校のところでは、小学校で、ある程度、英検や何かの上級を取った子は、中学になったら実は成績が下がらなかった。

ところが、英検3級ぐらいまでいっていない子たちは、中学になって、リーディングとライティングと文法が出てきた瞬間に英語が嫌いになったという、そういう子たちが一定出てきまして、ここの壁が非常に難しいなというふうに思っております。

一方、例えば親御さんなんかにはしますと、高校受験や大学受験のためにできるだけ英検２級以上を取らせようとかというところを見ると、どうしてもリーディング、ライティング、文法を押さえないといけないといったようなバックグラウンドがある中で、どれがいいかなという背景の中でかなり悩んだということになります。

やはり、そのような意味では、先ほど善本委員が言われたところで、発信力というところが板橋区の教育ビジョンとかにしているという意味では、やはり東京書籍さんがというのは私も同感です。

また、やっぱりリーディング、ライティングみたいなのところをと考えたときには、光村図書さんが聞くことを重視した教科書になっているというお話がありましたが、そのとおりだと思いますので、この辺をやるというような形になって、これは学校で様々な意見が分かれるかなというふうに思っていて、あと、私がお２人の色々な意見を聞く前は、教育出版も割と軽量で、大きさや何かとか、文字の大きさや何かも、日本語での説明も整理されて、紙面がすっきりしているといったところ、少しここも注目していたわけなのですが、お２人の意見を聞いて、順位づけではないのですが、東京書籍さんが板橋区にとってはいいのかなと思いました。

私はそのような感じで、以上です。

教 育 長 野田委員、お願いします。

野 田 委 員 よろしくをお願いします。

私は、英語についての審査の観点として、これまで同様に板橋区授業スタンダードに沿った流れで構成されていること、単元ごとの見通しの立てやすさ、さらに、小学校で外国語の授業で触れてきたアルファベットや単語の読み書き、発音を活用し、中学校での授業への接続を意識した内容であることを主なポイントとして挙げました。また、教科書を読むことによって自学自習が可能であることや、教員が授業を進めやすい構成であることも重要視しました。

さらに、令和６年度の小学校での教科書の採択については、中学校での英語学習の導入に向けて、書くことを意識した内容が含まれていることも考慮に入れました。

全体的に各社の教科書を見て感じたのは、板橋区授業スタンダードに基づいた流れで、それぞれのステップが分かりやすく構成されており、学習のプロセスが生徒にも教員にも理解しやすく、見通しが立てやすいと感じました。また、英語学習に必須である音読を促す表記がある点も評価されるところでした。

私の方からは、今回の採択では、東京書籍、教育出版の順で推薦させていただきます。

東京書籍の教科書については、ユニットの初めに目標やゴールが明記され、「Unit Activity」や最後の振り返りができる構成が非常に重要であり、生徒の主体的な学びを促進していると考えます。また、全学年で「Unit 0」としてコミ

コミュニケーションを図り、1学年では小学校の学習の復習ができ、中学校の学習とのスムーズな連携が図られています。

「Unit」「Real Life English」「Stage Activity」の3つのバランスが適切に配置されており、総合的な英語力の向上に寄与する構成だと感じました。また、「Read and Think」では、段階的にアプローチされており、「Round 1」で概要を把握し、「Round 2」で詳細を理解し、「Round 3」で題材に基づいて考えを表現するという流れが適切に構成されています。このような内容から、「スモールステップ」での読解が言語活動への移行をスムーズにすることができると感じました。

「New Words」のセクションでは、使用する語句が太字で表記されており、非常に分かりやすいです。発音に必要な語句には絵文字がつけられており、小学校で学んだ単語については別に表記されているなど、デザインの統一性が視覚的にも見やすいと感じています。

また、環境問題やSDGsに関する取り組みについても多くの記載があり、1学年の「Unit 8」、2学年の「Let's Read 3」、3学年の「Unit 2」では環境問題が扱われています。さらに、2学年の「Social Studies」ではSDGsが取り上げられており、環境教育との関連性の意識づけや実社会の課題についての理解を深めることが期待されます。

多くのデジタルコンテンツも配置されており、自学自習に対して非常に有用であると考えます。委員のみなさまが仰っていた通り、見やすいレイアウトもこの教科書を推薦する評価のポイントとなりました。

次に、教育出版についてですが、思考力、判断力、表現力を育成するための構成が優れていると感じました。1学年の4ページから20ページにわたり、小学校の学習を振り返りつつ、中学校の学習へのつながりが考慮された印象があります。目次には単元と関連するSDGsのマークが示されており、これはSDGsの環境教育やキャリア教育との関連づけがされていると感じました。

9年生の最後には「Further Reading」という読み物が掲載されており、発展的な学習への活用ができるため、自主的な学びを深めるために有用です。また、デジタル版の6、7にはディベートやディスカッションの項目があり、社会的な問題に触れながら自身の考えをまとめる学習ができる内容となっています。これは非常に資料的な立場においても発展的な学習ができると考えられます。

まとめますと、推薦した2社、東京書籍と教育出版の教科書は、先に申し上げた観点から、教科書構成が板橋区授業スタンダードに沿っており、特に話し合いを通じて他者の意見と自分の考えを比較し、理解を深めるための共同的な言語活動を通じて主体的に考える力を養成すること、まとめや振り返り、そして「アウトプット」においても、教科書で学習した内容が今後の学習に繋げやすいように工夫されていることが評価されます。各社ともに同様の視点で内容を検討されていますが、学校現場で生徒が読みやすく、先生が使いやすいという観点を考慮し、東京書籍を推薦させていただき、以上の評価とさせていただきます。

私からは、以上になります。

教 育 長 それでは、私ですが、学習指導要領の目標の表現のところですが、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するということが明確に書かれています。

それから、いわゆる4技能、聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと、これをしっかり習得をするということです。

それから、こういうふうにも書かれています。外国語の背景にある文化に対する理解を深める。こういう表現がありますので、言葉を習得することにとどまらず、英語の場合は、その背景にある英語圏の文化等々についても、生徒たちが理解を深められるような教材が求められているということになります。

そういう意味では、どの出版社も、そのことをしっかりと取り込んだ内容にはなっておりますが、やはり皆様と同じで、総合的に見ると東京書籍のものが使いやすいと判断いたしました。

皆様と重ならないことだけ申し上げます。一部重なるところもあるかもしれませんが、まず冒頭のところで、非常に丁寧に書かれていて、学び方をしっかりと、まず学ぶ、あるいは見通しを立てるという、こういう自己学習といえますか、個別最適な学習、あるいは1人1台端末を使った学習がこれからさらに進んでいきますが、そういう学習にも非常に使いやすい構成になっております。

英語に限らずですが、既に板橋でも始まっている単元内自由進度学習とか、新たな試みも今後はより深まっていく、推進されていくという見通しがありますので、そういうときにも、こういう自己学習、あるいは自習といえますか、自学自習ができる教材というのは求められてくるだろうと思います。

教材の最初のところには、必ずゴールというのが書かれていて、一体どういうことを学ぶのか、それは知識や技能の面でということですが、〇〇することができると書かれていますので、この点についても、生徒本人もそうですし、先生方も教えるときの指針になるだろうということで、非常に分かりやすいです。

それから、「Real Life English」というのが時々出てくるのですが、このコーナーでは、身近なシーンが取り上げられています。

そのことによって、自分たちの生活に根差した英語の活用ということができるよう内容が盛り込まれております。

それから、度々申し上げたように、キャリア教育も大事にしたいものですから、仕事について関わるものも大事です。

中2では29ページのところになりますし、中3のところでは30ページ、職業体験で保育園に行くという題材も取り上げられています。中2か中3で職業体験をするようになると思いますので、それをさらに英語で理解をしていくということも非常に有効かなと思います。

あと、分かりやすいのが、巻末のCAN-DOリストです。聞くこと、読むこと、話すことが2つあって、やり取りと発表、そして、書くことという4技能で、実質、5技能が明確に書かれていて、これで自己チェックもできますし、先生と一緒に確認をすることもできるということで、これが大変有効だと思います。

この欄には、1年生の教科書には、小学校の学習というのが一番上に書かれています。2年生は、1年、2年、3年しかないのですが、3年生を見ると、今度は高校の学習というのが一番下に出てくるということで、小中高のつながりもしっかり意識をして構成されているという、この辺りが非常に丁寧に書かれていますので、このことも非常に使いやすい教科書になっていると考えられます。

ということで、英語については、他の委員さんからもお話があったように、楽しみつつ、しかし、高校受験もごさいますので、しっかりと学習をしていくということも求められます。

学力向上ということも取り上げられますので、それらを総合的に養う教科書としては、私も東京書籍を推したいと思います。

以上です。

それでは、皆様、東京書籍ですので、「英語」については、「東京書籍」を仮採択することにご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、「英語」については、「東京書籍」を仮採択することとします。

それでは、間もなく5時になるのですが、本日は5時30分までということで冒頭申し上げましたが、もし審議が長引きまして、午後5時30分を過ぎた場合でも、議事運営の都合上、全ての議題が終了するまで、会議の時間を延長いたしますので、皆様、ご了承ください。

それでは、次に、道德の審議に入ります。指導室長から説明をお願いします。

指 導 室 長 「道德」につきましては、7社でございます。「東京書籍」「教育出版」「光村図書出版」「日本文教出版」「Gakken」「あかつき教育図書」「日本教科書」の教科書から採択をお願いします。

教 育 長 それでは審議に入ります。
まず、高野委員から。

高 野 委 員 1学期の末に生徒会交流会に出席し、各生徒会の活動報告を聞く機会がありました。

各校の生徒会では、いじめ撲滅に向けて、年間を通して様々な取組を継続的に行って、活発な意見交換が行われていました。

その中で、道德での学習についても触れられていて、道德でいじめについて学習することの意義を改めて再認識したところです。

いじめについて丁寧に扱っている点で、光村図書出版、それから日本文教出版の2社を推薦したいと思います。

まず光村図書出版ですが、教材の一つ一つを独立させるのではなく、幾つかの教材が関わりながら、テーマに向かって考えられるように、9つのユニットに内

容が分けられています。

10ページに「道德道案内」がありユニットのテーマを確認しながら、1年間の学習の見通しを立てて、内容を深めることができるようになっています。

各学年に、いじめを許さない心について考えるユニットがあります。

前の時間で学んだことを、別の観点や活動で深めていく「学びPlus」のコーナーで、漫画教材や学校生活の中での出来事を通して考えていくことができます。

1年の44ページ、「いつもの教室の中では」というところでは、漫画を読んで、40ページ、「魚の涙」というところで考えたことを深めて、いじめについて考えていくという内容です。

また、いじめ以外にも、「情報モラル」のユニットがあり、1年の89ページでは節度のある端末の使い方、2年の89ページ、人とのコミュニケーションの取り方、3年の91ページでは、インターネットの中の社会ではというふうに学習していく、そこの「学びPlus」のところでは、漫画教材を通して情報モラルについて、別の視点から考えを深めていけるページとなっています。

また、「やってみよう」という、対話しながら考えを深める取組紹介しています。

1年では自分の気持ちを相手に伝えたり、2年では感情をマネジメントしたり、3年では自分を受け入れるためにというような取組を紹介しています。

その中で、今日の哲学というヨシタケシンスケさんの漫画、1年では「正義ってなんだろう」、2年では、「「ゆるす」ってなんだろう」、3年では、「自立ってなんだろう」という漫画を受けて自分たちでテーマを決めて話し合う活動を紹介しています。

また、人権、環境、防災についてのコラムがあります。

人権については、1年34ページ、「私たちの持っている人権とは」、2年では「マイノリティの問題はみんなの問題」、3年では「人権を大切にできる社会にするためには」など、発達段階ごとに人権について学び、考えを深めることができる、そのような読み物があります。

以上が、光村図書出版です。

次に、日本文教出版です。

日本文教出版の場合は、教材の題名の右上に、内容項目のキーワードがあり、また、下に登場人物の絵や作者の写真が載っていて、人物の心情の動きに注目できて、学習のイメージがしやすくなっています。

こちらも各学年に、いじめ、よりよい社会のユニットが複数設定してあり、繰り返し学習することができます。

いじめユニットでは、いじめを中心に、情報モラルや多様性、法律などに関連づけて、より広い視野でいじめを考えさせています。

あと、学びを深めようというコーナーでは、思考ツールとして、「ウェビングマップ」や「フィッシュボーン」などを紹介しています。

また、タブレットの付箋機能を使ったり、ノートを使って整理するという手法

を使って考えを深める手立てを紹介しているところもあります。

また、役割演技として、1年では、145ページ、「裏庭でのできごと」、2年では、「他人の靴を履いてみる」、3年では、「電車の中で」など、登場人物になる体験を通して、他の人の立場について考える活動を紹介しています。

1年、16ページの「“村人B”には」というところがあるのですが、これは漫画「ハイキュー!!」の実際の漫画と解説文を使っています。

また、2年の120ページから、「制服は誰のもの」は、生徒会がルールメイキングに取り組む内容です。

2年、44ページには、全国の中学校でいじめをなくす活動について取り組んでいることを紹介するなど、中学生が身近に感じ、興味関心を高める内容のものが多く取り上げられている点がよいと思います。

あと、別冊ノートは二次元コードがあり、さらに使いやすくなっている点、小学校でも日本文教出版の教科書を使っている点などで、日本文教出版が1番、次に、光村図書出版が2番ということで推薦したいと思います。

教 育 長 青木委員、お願いします。

青 木 委 員 よろしく願いいたします。

いずれの教科書会社さんも現代的なテーマを取り上げられている点、それから、基本的にはバランスのよい題材で構成されているというふうに感じておりまして、とてもよいなというところはありません。

ただ、この中で、板橋区の子どもたちというところ、教育ビジョンも含めて、意識した中では、私の中で3つ挙げさせていただきます。

1つは、日本文教出版、それから、東京書籍とGakken、この3社でした。

それぞれ、他の委員からお話があったところがありますので、重なっていない部分だけ申し上げますと、東京書籍さんは、別冊ノートはないのですが、巻頭に道徳科とは、教科書の使い方とか、デジタルコンテンツの使い方、これが分かりやすく説明されておりまして、全ての教材に、朗読とか、映像への二次元コードがついている、この辺は東京書籍さんのお得意のところかと思いますが、この辺がやっぱり充実しているところです。

P l u s コラムというのが多数掲載されておりまして、話し合いの方法、他にについても参考になるものが多いなと思ったところが、これを取り上げさせていただいた点です。

それから、Gakkenも、別冊ノートはないのですが、各学年とも、二、三の教材から成るキャリア、多様性、SDGs、3つ目のユニットを設けておりまして、各教材に2つの設問等があります。

3分の1ぐらいの教材に二次元コードがついている中で、ユニークだったのは、特設ページ、クローズアップでは、教材の内容項目に即した管理情報を扱って、題材を多面的に捉えられるように工夫がされている点、各学年の道徳的価値項目がバランスよく配置されている点、それから、環境によりよく生きるための22

の鍵というのがありまして、これは道徳の本質を分かりやすく解説しているなどというふうに思った次第です。

文教出版ですが、これは高野委員からもお話があったと思うのですが、別冊ノートの内容がやはり充実しております。

教材ごとの記録と振り返り、学期ごとの振り返りができる別冊ノートです。

二次元コードもついております。

これも含めて、全ての教材に、朗読資料まで二次元コードがついている点、学びを深めようでは、思考ツールのタブレットなどを活用しながら、考えを深める方法を分かりやすく解説している点、教材の題名の右上に、4項目には、各項目のキーワード、下に登場人物の絵とか写真が掲載されていて、先生方が説明しやすい作りにはなっているかなというふうに思いました。

やはり本校の教員に聞いてみたのですが、別冊ノートの使い方というのが、やはりかなりよいというのを聞いています。

個別最適化というのに当たったときに、やっぱりこの道徳というのは、各生徒のそれぞれの意見が、結構、個人的な意見が色々な形で出てくるものです。

ノートチェックというのをやる意味で、この別冊ノートがあるというのは非常に使いやすいというお話もあったので、やはりこの3社の中でも、現場の先生の意見も含めてなのですが、日本文教出版がいいのかなというふうには思いました。

以上です。

教 育 長 では、野田委員さん。

野 田 委 員 よろしくお願いします。

道徳について意見を述べさせていただきます。審査の観点としては、様々な事情から自己の生き方について考えること、答えが一つでない道徳的課題を一人ひとりが自分自身の問題として捉え、向き合い、考え、議論するために使いやすい教科書であるかどうか、また、板橋区授業スタンダードに沿った流れになっているか、単元ごとに学習の見通しが立てやすいか、特に他者との話し合いを通じて自身の考えを深めることができるかといった教科書全体の構成を主なポイントとして審査いたしました。

私からは日本文教出版、東京書籍の順で推薦させていただきます。全社を通じて考えることを促す流れになっている点や、著名人の活動や功績に触れるなど、現代的な内容を取り入れる工夫が感じられました。

東京書籍については、各学年においていじめや命といった重要なテーマを取り扱っており、教材には「考えよう」「見つめよう」「ぐっと深めよう」という3つの設問が設定されています。この構成により、生徒が深く考える機会が提供されており、現代的な課題に対する理解を促進するとともに、思考力や判断力の養成が期待できると考えました。

各学年には「いじめのない世界へ」や「いのちを考える」といったユニットが設けられており、これは現代的な課題に対する深い考察を促す内容になっている

と感じています。特に SDGs に関連した教材が各学年で掲載されており、17の目標の中から関連するゴールを示している点では、環境教育や国際理解の観点を深めるために非常に使いやすいと評価しました。

また、巻末に教材の配列が一覧できるページがあり、内容の項目や各教科の関連が示されていることも便利です。3年生では近くの小学校の児童と一緒に取り組む内容があり、小中一貫教育の充実に向けた取組として、教員にとって授業を計画する際に非常に役立つと評価いたしました。

次に、日本文教出版についてですが、教科書の構成は板橋区授業スタンダードに沿っており、全体的に一貫しています。「気づく」「考える」「議論する」「深める」「見つめる」「生かす」といった流れになっており、道徳的課題に対して気づいたことを友達と話し合い、自分を見つめ直して考えるという姿勢が身に付く構成は大変評価できる内容です。また、話し合いなど、授業を進めやすくする工夫が施されており、非常に有用であると感じます。

学年ごとにいじめやより良い社会といった重要なテーマを取り上げており、それぞれに設問が設けられていることで、生徒が深く考える機会を促しています。これが道徳教育の核心に迫る学びとなると考えます。

また、別冊の道徳ノートについても、これまでの意見が大きく反映され、使用用途の多様性が高まり、経験の浅い教員にとっても使いやすい内容になっていると感じています。別冊ノートに振り返りがまとめられていることで、授業の際に前回の内容を一目で確認できる点は、大変効率的です。

文章資料が簡潔で適切な分量にまとめられているため、授業時間中に話し合いの時間を多く取ることができ、デジタルコンテンツで朗読が利用できる点も評価できます。これにより、個別に文章を読む時間を短縮できると考えました。

現在使用中の教科書については、使いやすさなどの観点から非常に良い意見をいただいているため、これが評価のポイントとなりました。

まとめとして、私が推薦した日本文教出版と東京書籍の教科書は、これまで述べた観点から構成が授業スタンダードに沿っており、話し合いを通じて他者の意見と自分の考えを比較し、さらなる理解を深め、主体的に考える力を育成できる内容となっています。各社ともに同様の視点で内容が検討されていますが、学校現場で生徒が読みやすく、教員が使いやすい視点も考慮した結果、日本文教出版を推薦させていただきます。

教 育 長 それでは、善本委員、お願いします。

善 本 委 員 それでは、道徳の教科書を採択するに当たって、よく言われる日本の子どもたちが諸外国の子どもたちと比べて、自己肯定感が低いという視点に立って、いずれの教科書を拝見しても、非常に自己肯定感を高めるところに、全体を通して意識が行きわたっているなというふうに感じました。

その上で、私は第一に日本文教出版を推薦したいと思います。

推薦の項目については、もう皆さんがおっしゃっていたので、重複する部分は

避けて、お話が出なかったことについてだけあえて申し上げると、地域のよさという視点で、3年間かけて47都道府県について全て扱っているということがあります。

東京の子どもたちというのは、ややもすればそういうところの意識が非常に薄くなりがちなので、そういう意味で、47都道府県について意識を、そのようなことが差別になったりということもあり得るので、意識をするという意味で、この47都道府県を3年間かけてというのは、巻末の資料ではありますが、非常に優れた視点ではないかなというふうに思います。

もう1点、推薦いたしますのは、私はGakkenです。

Gakkenについても、先ほど申し上げた自己肯定感という点から、非常に明るく優しいトーンで、全体、表紙を初めとして作られている中で、そこに緩急が非常につけられているというか、例えば1年生の118ページの「らしさって何だろう」というところでは、イラストがすごく大きく、やっぱりその「らしさ」とかと言われているものにこだわらなくてもいいんだということを割と強く言うような強さがあって、優しさと強さの緩急がイラスト上で非常にバランスが取れている。

そして、当然のことなのですが、1年から2年、3年と、発達段階に応じて、1年生の教材は比較的直感的に読み取れるようなものになっていて、ページ数も3年生のものが多いのですが、イラストが少し少なくなって、文字量が多くなって、直感よりは深く考えるというふうに、教材の当然の展開ではありますがなっていて、文字量も増えて、様々な視点から、深く考えなければならないような教材に発展的に作られているというところが非常にバランスが取れていて、学年が進行するに従って深く考えられるように十分配慮されているというところが非常に魅力だと感じました。

ということで、1番目に日本文教出版、2番目にGakkenを推薦したいと思います。

以上です。

教 育 長 私からは、まず学習指導要領の目標の表現を確認したいと思います。

この中で、自己を見つめ、物事を広い視野から、多面的、多角的に考えるということが示されています。

確かに色々な考え方があり、あるいは価値があるということを生徒たちがしっかり見つめていく、そういう授業をこれからもやっていく必要があると思います。

また、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることがありますので、考える時間、判断力、そして心情、さらに具体的にそれを踏まえて実践をしていく、道徳の実践といわれる、こういう力をつけていく、そのようなことが道徳の授業では求められているということが分かります。

そういう意味では、どの教科書もそれを踏まえて丁寧に制作されているので、どれが選択されてもよいかとは思いますが、総合的に見ますと、私もやはり日本文教出版のものがいいと思います。

これは現在も使っている会社になりますし、学校の先生方に聞いても、非常に使い勝手がいいという評判です。

皆さんと重なりますが、最初のところで、目次が2・3ページございますが、ここが丁寧に記述されていまして、どの分野も4つの内容が学習指導要領にはありますが、どの内容のものなのかということも分かりやすいですし、それから、特にその中で、いじめと向き合うというテーマ、よりよい社会を考えるというテーマについては、背景の色を変えて、ここの内容についてはこの番号の題材として掲載しているということが分かりやすくなっている。これも1つの特徴かと思えます。

それから、道徳科での学びを始めようということで、その次のページですが、1年生の4ページ、5ページ、学び方をしっかり学ぶということで、これもどの教科でも申し上げてきましたが、自己学習がしやすい、それから先生方がこれを見て、若い先生も、経験年数の浅い先生も増えてきましたので、本区でも、このようなこともしっかり道徳の授業を、これを見て授業をすることができる。これもとても優れている点だと思います。

私は大学教員のときに、教員養成の道徳の指導法という授業を担当したことがあるのですが、色々な自治体の学校にも呼ばれて校内研究などで助言をすることもありました。基本的に道徳の授業は、まず冒頭でいきなり教科書の読み物を読むのではなくて、まず自分たちの生活の中で、そのテーマに迫っていく状況を確認するとか、あるいは事前にアンケートを取っておいて、友達とのトラブルがあるとか、ないとかというので、何%の生徒がそう思っています等を示した上で読み物教材に入っていくというのが割とパターン化された授業になっています。

その段階で、やはり読み物教材の魅力がないといけませんが、どの会社のも優れています。非常に分かりやすく、先ほど善本委員がおっしゃったように、1年、2年、3年ときちんとその発達段階を考えた上で中身も選ばれていますし、生徒たちが読んで、まさに「心情」という言葉がありましたが、心情を読み解くことが十分できる、感情移入がしやすい、そういう中身がしっかりと選ばれていると思います。これはどの出版社もそうなのですが、とりわけこの日本文教出版が多く考えられていると思います。

冒頭のところには、主人公や登場人物がちゃんと書かれていて、大体、読み終わった後に、どういう登場人物か、まず確認をして始めていくというのが授業の定番ですので、そのことも分かりやすく提示されています。

読み物教材を、通常、読んだ後に考えていくということで、幾つかの発問を教員が示すわけですが、その主発問になるであろうものが、この最後、考えてみようというところに示されていて、もちろんそれ以外にも、先生方は発問を考えているのですが、それがまずきっちり書かれているのが重要になってきます。

その上で、そこで終わってはいけないわけで、今度は読み物教材の中身から飛び出してきて、では、自分にとってはどうなのか、あるいは、自分たちにとっては、例えば友情がテーマであれば、友情のことをどう考えるのかというふうに、引き寄せていかなければいけません。そのためには、そのための発問も必要なの

ですが、それがしっかり「自分にプラス1」という形で書かれています。

これはもちろん他の出版社のものもちゃんと書かれていますのですが、ここは明確に、いわゆる中身に関する発問と、それから一步飛び出してきて、一般論の自分たちに引き寄せて聞く発問というのが例示されている。もちろん例示でいいわけですが、それが分かりやすく書かれているのがその特徴になります。

それから、これは野田委員からも言及がありましたが、道徳ノートの別冊、唯一別冊があるわけですが、これがさらに書き込みやすくなっているというか、内容も精査されて、どんどんバージョンアップされてきて、分かりやすくなっていると見ています。

今回のも、そのように思います。これも自分で書き込む、そして、それを友達と共有することもあるでしょうし、先生が見ることもあるでしょうし、最後に、下の方には自分への振り返りということでチェック項目も用意されている。

いいのは、最後に「自由欄」ということで、教師が全部決めてしまうのではなくて、自分たちで書き込める欄というのが、とても使い勝手がよく、これも特徴的なものでありますので、この出版社のものを推薦する理由になります。

読み物教材の中身もさることながら、学びを深めるヒントということで、例えば中1では、89ページに付箋を使って色々話し合い活動をしていくという手法があり、具体的な手法が例示されています。

中1では、付箋なのですが、中2では、クラゲチャートで、69ページです。それから、演技を見るときとか、具体的なロールプレイをするときには、演技を見るとき視点とか、意見発表するときにはどうすればいいかということも書かれています。いわゆる授業の中での方法論で、中身だけではなくて、方法論にも触れてくれているという点が、先生方が使いやすいだろうと思います。

それから、もう1つ、特徴的なのは、例えばということで、3年生の65ページのところを見ていただくと、ここに「あすへのメッセージ」とあるのですが、これは、この筆者、あるいは登場人物なのです。

これは「OriHime」というロボットの、青木委員が詳しいと思いますが、お話なのです。60ページから始まっている。ここに登場する方と筆者が出てきてメッセージを発してくれているという、こういうところも非常に丁寧で、具体的に想像するだけではなくて、実際に関わった方々の声も聞くことができるという点も理解が深まるきっかけになっているのではないかと思います。現在使っているということもありますし、私は日本文教出版を推したいと思います。

他には、私としては、東京書籍もとてもよくて、何が一番いいのかというと、巻末の心情円です。実際に自分の今の気持ちを、ピンクと青のシートで重ねて円を作って表すという、こういう工夫が東京書籍の特徴的なものなのですが、このようなことも含めて、もちろん全体の目次の示し方とか、22の観点の示し方なども工夫されているのですけれど、この点などもあって、これを2番目に推したいと思います。

そういうことでご意見が一致していますので、「道徳」については、「日本文教出版」を仮採択することにご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、「道徳」については、「日本文教出版」を仮採択することとします。
以上で、全ての教科、種目についての審議が終了いたしました。

全ての教科、種目について、次のとおり仮採択いたしましたので、まずは読み上げさせていただきます。

「国語」三省堂、「書写」三省堂、「社会（地理的分野）」教育出版、「社会（歴史的分野）」教育出版、「社会（公民的分野）」日本文教出版、「地図」帝国書院、「数学」東京書籍、「理科」東京書籍、「音楽（一般）」教育出版、「音楽（器楽合奏）」教育出版、「美術」日本文教出版、「保健体育」大修館書店、「技術・家庭（技術分野）」東京書籍、「技術・家庭（家庭分野）」東京書籍、「英語」東京書籍、「道徳」日本文教出版、以上が仮採択の結果となります。

それでは、令和7年度区立中学校使用教科用図書の給与について、指導室長から説明願います。

指 導 室 長 令和7年度区立中学校使用教科用図書につきましては、原則として、今回採択した発行者から発行される新版の教科用図書を給与することになっておりますが、このことについて、国及び都から留意事項が示されておりますので、ご説明いたします。

「書写」「地理」「歴史」「地図」「保健体育」「技術・家庭」「第3学年の美術」「第3学年の音楽（一般）」「音楽（器楽合奏）」につきましては、継続使用ということになっているため、前年度までに給与したものをそのまま使用いたします。

次に、学習指導要領において、普通学年の指導内容が一体となっている教科であって、教科用図書が学年別に発行されている教科である「英語」「道徳」については、採択替えにより、今年度と異なる発行者の教科用図書を使用することとなった場合、第1学年については、採択変更後の発行者の新版教科用図書を使用し、第2、第3学年については採択変更前の発行者の新版教科用図書を使用することとなります。

説明は以上でございます。

教 育 長 それでは、お諮りいたします。仮採択といたしました各教科用図書について、本採択とすることでご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、そのように決定いたします。

間もなく5時30分でございますが、全ての議事が終わるまで進行していきます。よろしくお願いします。

次に、採択事項（３）令和７年度特別支援学級使用教科用図書の採択について、指導室長から説明願います。

指導室長 特別支援学級で使用される教科用図書につきましては、資料２の「令和５～７年度使用 特別支援教育教科書調査研究資料」、また、資料３「令和７年度 文部科学省著作教科書一覧」に掲載されている「文部科学省著作教科書」、そして、参考図書のフォルダ内に入っている、参考１「令和６年度 教科用図書調査委員会調査研究報告書」、参考２「令和６年度 特別支援学級使用教科用図書学校調査研究報告書」となります。

説明は、以上でございます。

教育長 それでは、質疑、意見等がございましたら、ご発言ください
いいですか。

（なし）

教育長 それでは、お諮りいたします。採択事項（３）令和７年度特別支援学級使用教科用図書については、「令和５～７年度使用 特別支援教育教科書調査研究資料」「令和６年度 教科用図書調査委員会調査研究報告書」「令和６年度 特別支援学級使用教科用図書学校調査研究報告書」に掲載されている教科用図書と、「文部科学省著作教科書」を採択することでご異議ございませんか。

（異議なし）

教育長 それではそのように決定いたします。
以上で、日程第一 議案第２６号についての審議を終了いたします。

○請願

日程第二 請願第１号 板橋区の中学校教科書採択に関する請願（継続）

（指導室）

日程第三 請願第２号 板橋区内中学校における「歴史教科書」の採択に関する
請願（継続）

（指導室）

教育長 続きまして、日程第二 請願第１号「板橋区の中学校教科書採択に関する請願（継続）」及び日程第三 請願第２号「板橋区内中学校における「歴史教科書」の採択に関する請願（継続）」について審議いたします。

請願第１号及び第２号につきましては、７月２５日に開催された教育委員会で審議し、教科書選定作業を適正かつ公正に進めるため、継続審議といたしました
が、先ほど教科書採択の審議が終了いたしましたので、本日、審議いたします。

それでは、指導室長から説明願います。

指導室長 請願第1号「板橋区の中学校教科書採択に関する請願」について説明いたします。

内容につきましては、7月25日の教育委員会で説明したとおりです。

請願項目等は記載のとおりですので、説明を省略させていただき、教科書採択の取扱いについて説明いたします。

請願項目の1点目、現場教職員及び区民の意見の尊重と紹介、審議についてです。

現場教職員の意見として、学校ごとに学校調査研究報告書を作成し、報告案件として、教科用図書審議会答申の中で教育委員会に報告しております。

また、令和6年6月4日から6月27日までの期間に、区内3か所において教科書展示会を実施し、区民の方にアンケートを記入していただきました。その内容は、区民意見として、教科用図書審議会答申の中で教育委員会に報告しております。

これらのことから、採択に当たっては、現場教職員や区民の意見を参考にした協議がなされたと考えております。また、採択後、教科用図書審議会の会議録を公開し、教職員や区民の意見を開示いたします。

2点目、採択の方法と説明責任についてです。

教科書の採択に当たっては、これまでどおり、合議制の執行機関として、委員による議論を行い、様々な意見の立場を踏まえた意思決定を行いました。

また、教科書を採択する際も、教育委員会を公開し、議事録も公開することから、説明責任についても十分果たしていると考えております。

3点目、配慮事項についてです。

教科書は、中学校において主たる教材として使用義務が課されている図書であり、生徒の教育を行う上で極めて重要な役割を果たすものです。採択権者の責任と権限において教科書採択を行うことは、教育委員会のなすべき仕事のうちで最も大切なことの1つであり、板橋区教育ビジョン2025に基づく教育の板橋の実現を図るために、教育や教科書の本質を踏まえた議論になったと考えています。

また、教科用図書の採択は文部科学省の検定審査に合格した図書の中から行われました。

検定審査では、生涯にわたって自己実現をめざす自立した人間、公共の精神を尊び、国家・社会の形成に主体的に参画する国民及び我が国の伝統と文化を基盤として、国際社会を生きる日本人の育成をめざす教育基本法や、学校教育法、学習指導要領に示す目標などに照らして適切であるかどうか審査されています。

また、引用する資料については、信頼性のある適正なものが選ばれており、その扱いは公正であること、さらに主体的、対話的で深い学びの実現に資する指導ができるよう、適切な配慮がなされていること、これらのことから、十分な配慮がなされたと考えております。

続きまして、請願2号「板橋区内中学校における「歴史教科書」の採択に関する請願」について説明いたします。

要望事項等は記載のとおりです。

それでは、要望事項に関する教育委員会における教科用図書採択の取扱いについてご説明いたします。

要望事項、望ましい歴史認識に基づいた歴史教科書の採択についてです。

歴史教科書は子どもたちが歴史を学ぶ上で重要な役割を果たすため、その情報が客観的かつ正確であることが求められます。

また、歴史教科書の採択を行う際には、次の点に留意した上で議論していただいたと認識しております。

1 点目として、歴史認識の正確性が挙げられます。

歴史教科書に記載されている情報は、歴史的事実に基づいている必要があり、誤った情報や偏った情報が含まれていると、学習者に誤った歴史認識を植えつけ、ひいては錯覚、偏見を助長することにつながります。

2 点目として、人権や思想等に対する配慮です。

歴史教科書には、ジェンダーや民族、宗教など、人権や思想等への偏見が生まれないように配慮することが重要であり、全ての人々の視点等が適切に表現された教科書であるべきと認識しております。

以上の点などに留意しつつ、望ましい歴史認識に基づく歴史教科書の採択に当たっては、適正かつ公正な選定作業はもとより、歴史教育の質を保ち、学習者の客観的かつ包括的な視点から学ぶことができる教科書の採択に努めていただいたところであると認識しております。

説明は以上でございます。

教 育 長 それでは、ただいまの件について、質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。

高 野 委 員 ただいま指導室長から説明がありましたとおり、教科書選定作業を適正かつ公正に審議してまいりましたので、今回の請願につきましては、教育委員会としては、採択、不採択の判断は行わずに、教科書採択の結果及び教科書選定作業の概要を請願者に通知することをもって審議終了という取扱いでよろしいのではないかと考えております。

教 育 長 他に、ご意見等はございますか。

(異議なし)

教 育 長 それではお諮りいたします。日程第二 請願第 1 号及び日程第三 請願第 2 号については、教育委員会としては、請願への採択、不採択の判断を行わず、教科書採択の結果及び教科書選定作業の概要を通知することをもって審議終了とすることでご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 それではそのように決定いたします。
これより、残りの議事について審議いたします。

教 育 長 日程第四 議案第27号「令和6年度（令和5年度分）教育委員会が行う点検・評価の結果に関する報告書」については、9月の文教児童委員会で審議を予定している案件のため、本日の教育委員会において公開の審議を行うことにより、具体的かつ自由な討論、質疑ができないおそれがありますので、一時非公開による審議をさせていただくことにご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、そのようにいたします。
次に、教育委員会次第にはありませんが、追加報告事項はございませんでしょうか。事務局、よろしいですか。

(なし)

教 育 長 各委員、よろしいですか。

(なし)

教 育 長 それでは、ただいま申し上げましたとおり、日程第四 議案第27号については非公開として協議いたしますので、傍聴人の方はご退席願います。ありがとうございました。

(傍聴人 退席)

○議事

日程第四 議案第27号 令和6年度（令和5年度分）教育委員会が行う点検・評価の結果に関する報告書

(教育総務課)

教 育 長 それでは、日程第四 議案第27号「令和6年度（令和5年度分）教育委員会が行う点検・評価の結果に関する報告書」について、次長と教育総務課長から説明願います。

次 長 それでは、議案第27号でございますが、令和6年度（令和5年度分）教育委員会が行う点検・評価の結果に関する報告について、議案を提出するものでございます。

提出者は、長沼豊教育長でございます。

本議案は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づきまして、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成いたしましたため、これを区議会へ提出するとともに公表する必要があるため、提出したものでございます。

詳細については、事務局参事からご説明いたします。

教育総務課長 それでは、資料をご覧ください。

続きまして、2/63と3/63が概要になっておりまして、4/63からが本編になっております。

今回ご審議いただきたいのは、4/63からの本編でございますが、長文になりますので、それを概要で示しました2/63と3/63の部分で中身の説明をさせていただきます。

まず、2/63ページをご覧ください。

報告書の概要でございます。

1の点検評価の目的ということで、法律に基づきまして、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況点検及び評価を行いまして、結果に関する報告書を議会に提出して公表することによりまして、区民への説明責任を果たすとともに、効果的な教育行政の推進に資することを目的としております。

2の点検実施方法でございます。

評価対象事業としましては、学び支援プランの2025の全ての事業としておりまして、令和5年度から8年度まで、この期間の中で全事業の点検評価を実施する中での今回の分ということになります。

また、(2)のところ、学識経験者の知見を活用することとされておりますので、その活用、さらには教育委員会による評価の実施後に学識経験者の意見を聴取する機会を設けて、対象事業の改善、向上に生かすことが板橋区独自の取組として行ったものでございます。

そうした点検評価実施の流れはこちらで図示しておりますが、学識経験者の知見、経験を、この対象事業につきましては、ヒアリング、意見交換会を経て報告書へ、また、それ以外の他の事業につきましては、教育委員会による評価を実施した後、報告書にという流れで行っております。

(4)の評価標語及び方向性でございます。

評価標語は各事業の目標に対する到達度や進捗状況を示しておりまして、また、各事業の事業手法や目標値、仕様等について検討した上で、今後の進め方を方向性として示しております。

同じページの右上の方に、評価標語と方向性、それぞれ評価標語は「順調」から「達成」まで、方向性も「工夫して継続」から「事業の廃止」まで、こちらを使って評価を行っているというものでございます。

その下、3の令和6年度の点検評価、今回の対象事業ということで、14ございます。

知見の活用事業が、こちらに記載の 8 事業。さらには知見の活用外の事業として 6 事業、そちらもこちらに記載の 6 事業という事業の評価を行ったものでございます。

学識経験者、またはこちら、松波先生、佐野先生でございます。

3 / 6 3 ページに行きまして、評価の結果の中身に入ります。

まず知見の活用対象事業 8 つにつきましては、それぞれここに一覧を記載しておりますが、No. 4 のもてなしの心促進事業及びレガシー事業の推進拡充が、評価としまして、評価標語「撤退」の方向性として、事業所の見直しということでこちらをいただいております。こちらは、今回の評価に基づいてしっかり対応していくことになります。

その下に、学識経験者の方からの主な提言をいただいております。

例えば、ICT 環境の整備と GIGA スクール推進支援員の貢献について、肯定的に評価をいただいたりですとか、学校間での 1 人 1 台端末の活用に格差があり、その解消策や教員のモチベーション向上策、これらが求めたりされております。こちらの方もしっかりと受け止めて、改善を図っていくというふうに考えております。

右上の方に行きまして、③の学識経験者と教育委員会の意見交換会、こちらについても、全体で理解を深めたこと、もちろん当日に直接やり取りいただいたものですので、その中身をこちらの方に整理して記載している状況でございます。

その下、対象外の事業につきましては、評価 6 事業につきまして、こちらに記載のとおりになります。

「順調」もしくは「おおむね順調」ということで、こちらの方にはいい評価をいただいております。

これらの中身につきましては、最後、5 番のところで「好評」ということで、ホームページ、広報紙「教育の板橋」ですとか、お知らせ配信システム等で情報発信を、しっかりと議会報告をしていくという流れでございます。

このようなものの中身としました本編報告書をこちらで整えましたので、本日も審議いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

教 育 長 それでは、質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。

高 野 委 員 大変丁寧にまとめていただいて、ありがとうございました。

本編の方で、例えば上四小の食育ですとか、キャリア教育の中の板十小の 3M プロジェクトの具体的な取組とか、写真が挙げられていて、一般の区民の方たちが分かりやすい内容にまとめていただけた点が大変よかったなというふうに思います。どうもありがとうございました。

教 育 長 他にありますか。

(なし)

教 育 長 それでは、お諮りします。日程第四 議案第 2 7 号については原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、そのように決定いたします。
それでは、以上をもちまして、本日の教育委員会は閉会いたします。
ありがとうございました。

午後 5 時 4 0 分 閉会